

学校コード F113310103616

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 専門職大学の設置

注1

認可

注2

東京国際工科専門職大学

工科学部

情報工学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人日本教育財団

令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	大学本部
職名・氏名	シヨジ サイトウ アキ 主事 斎藤 亜希
電話番号	03-3344-5555
（夜間）	03-3344-5555
e-mail	daigaku.renaku@t.iput.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

工科学部

＜情報工学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人日本教育財団

(2) 大学名

東京国際工科専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-7-3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カスヤ トシヒコ) 粕谷 俊彦 (昭和46年4月)	—	
学長	(ヨシカワ ヒロユキ) 吉川 弘之 (令和2年4月)	—	
副学長	(トミヤマ テツオ) 富山 哲男 (令和2年4月)	—	
学部長	(トミヤマ テツオ) 富山 哲男 (令和2年4月)	—	
学科長等	(フジイ タツヤ) 藤井 竜也 (令和2年4月)	—	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
工科学部 情報工学科 情報工学士 (専門職)	工学関係	4年	120人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	480人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	-	-	-	-	120	-	120	-	120	-	120	-	1.11倍	-	1.04倍	-	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	463	(-)	354	(-)	246	(-)	288	(-)	(5)	(11)	(-)	(4)	(-)
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	439	(-)	340	(-)	236	(-)	276	(-)	(5)	(11)	(-)	(4)	(-)
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	149	(-)	132	(-)	142	(-)	151	(-)	(5)	(00)	(-)	(3)	(-)
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	138	(-)	119	(-)	138	(-)	141	(-)	(4)	(00)	(-)	(2)	(-)
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	1.15	-	0.99	-	1.15	-	1.17	-					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
- ・ なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
- ・ なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	130	-	124	-	134	-	152	-	【2年次】 128名中、2名が編入学生、留学生は該当なし。 【3年次】 115名中、4名が編入学生、留学生は該当なし。
	[-]	[-]	[-]	[-]	[3]	[-]	[1]	[-]	[-]	[-]	[1]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(8)	(-)	(3)	(-)	(11)	(-)	
2年次			-	-	-	-	110	-	118	-	128	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[2]	[-]	[1]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(-)	(3)	(-)	
3年次					-	-	-	-	108	-	115	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[2]	[-]	[1]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(0)	(-)	
4年次							-	-	-	-	108	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[2]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	[-]	[-]	[-]	[-]	[3]	[-]	[3]	[-]	[4]	[-]	[4]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(8)	(-)	(6)	(-)	(20)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	-
令和元年度	-	-	平成30年度	- 人	- 人	-
			令和元年度	- 人	- 人	-
令和2年度	138 人	8 人	平成30年度	- 人	- 人	-
			令和元年度	- 人	- 人	-
			令和2年度	8 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、他の教育機関への入学(1人)、就職(3人)、学生個人の心身に関する事情(3人)
令和3年度	249 人	15 人	平成30年度	- 人	- 人	-
			令和元年度	- 人	- 人	-
			令和2年度	12 人	1 人	就学意欲の低下(2人)、学力不足(1人)、学生個人の心身に関する事情(3人)、他の教育機関への入学・転学(5人)、[その他(1人)]
			令和3年度	3 人	1 人	学生個人の心身に関する事情(1人)、他の教育機関への入学・転学(1人)、[学生個人の心身に関する事情(1人)]
令和4年度	376 人	16 人	平成30年度	- 人	- 人	-
			令和元年度	- 人	- 人	-
			令和2年度	3 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、他の教育機関への入学・転学(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)
			令和3年度	5 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、学力不足(1人)、他の教育機関への入学・転学(1人)、家庭の事情(1人)、その他(1人)
			令和4年度	8 人	0 人	学力不足(1人)、他の教育機関への入学・転学(4人)、海外留学(1人)、就職(1人)、家庭の事情(1人)、
令和5年度	503 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	-
			令和元年度	- 人	- 人	-
			令和2年度	0 人	0 人	-
			令和3年度	0 人	0 人	-
			令和4年度	0 人	0 人	-
			令和5年度	0 人	0 人	-
合計		39 人		39 人	2 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{138} = \boxed{5.79} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{15}{249} = \boxed{6.02} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{16}{376} = \boxed{4.25} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{503} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工科学部 情報工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	英語コミュニケーションⅠa	1前	2				1				兼4	
	英語コミュニケーションⅠb	1後	2				1				兼4	
	英語コミュニケーションⅡa	2前	2				1				兼4	
	英語コミュニケーションⅡb	2後	1				1				兼4	
	英語コミュニケーションⅢa	3前	2				1				兼4	
	英語コミュニケーションⅢb	3後	1				1				兼4	
	英語コミュニケーションⅣ	4前	1				1				兼4	
	小計(7科目)	—	11	0	0	0	0	1	0	0		兼6
	コミュニケーションツール	1後	1									兼1
	小計(1科目)	—	1	0	0	0	0	0	0	0		兼1
目倫理科	社会と倫理	3前	2								兼1	
	小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
基礎科目	比較文化論	1前	2								兼1	
	感性をはかる	1前	2			1					兼1	
	コミュニケーションと記号論	1後	2								兼1	
	小計(3科目)	—	6	0	0	1	0	0	0	0	兼2	
職業専門科目	実習科目	2通	5			2	2					
	臨地実務実習Ⅰ【臨】	3通	7.5			4	1					
	臨地実務実習Ⅱ【臨】	4通	7.5			2	2	1				
	ソリューション開発Ⅰ【※】	3後	2			2	1					
	ソリューション開発Ⅱ【※】	4前	4			1	2					
	小計(5科目)	—	26	0	0	9	2	2	1	0	0	
実習科目A群	人工知能システム開発Ⅰ【※】	2前	2			1						
	メディア情報処理実習【※】	2後	1			2						
	人工知能システム開発Ⅱ【※】	3前	3			2						
	人工知能応用【※】	3後	2			1			1			
	小計(4科目)	—	0	8	0	4	0	0	1	0	0	
実習科目B群	IoTシステム開発Ⅰ【※】	2前	3			1	1					
	IoTシステム開発Ⅱ【※】	3前	3			2						
	IoTサービスデザイン【※】	3後	2			2						
	小計(3科目)	—	0	8	0	4	1	0	0	0	0	
実習科目C群	組込みシステム制御実習【※】	2前	3			1						
	自動制御機械開発実習【※】	3前	3			1						
	産業用ロボット実習【※】	3後	2			1						
	小計(3科目)	—	0	8	0	2	1	0	0	0	0	
講義・演習科目	情報工学概論	1前	2			3						
	デザインエンジニアリング概論	1前	3			1						
	C言語基礎	1前	3								兼1	
	エレクトロニクス工学	1前	3								兼1	
	コンピュータシステム	1前	2			1						
	情報数学	1後	2								兼1	
	線形代数	1後	2								兼1	
	解析学	1後	2								兼1	
	組込みC、C++言語	1後	3				1					
	回路・プリント基板設計	1後	3			1						
	確率統計論	2前	2								兼1	
	プログラミング概論	2前	1.5			1		1				
	データベース基礎と応用	2前	2			1						
	技術英語	3前	2			1						
	ソフトウェアシステム開発	3前	2			2	1					
	情報セキュリティ応用	3前	2			1						
小計(16科目)	—	37	0	0	10	0	1	1	0	0	兼4	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	英語コミュニケーションⅠa	1前	2						1			兼6	
	英語コミュニケーションⅠb	1後	2						1			兼6	
	英語コミュニケーションⅡa	2前	2						1			兼6	
	英語コミュニケーションⅡb	2後	1						1			兼6	
	英語コミュニケーションⅢa	3前	2						1			兼6	
	英語コミュニケーションⅢb	3後	1						1			兼6	
	英語コミュニケーションⅣ	4前	1						1			兼6	
	小計(7科目)	—	11	0	0	0	0	0	1	0	0	兼8	
	コミュニケーションツール	1後	1										兼1
	小計(1科目)	—	1	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
目倫理科	社会と倫理	3前	2									兼1	
	小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
基礎科目	比較文化論	1前	2					1				兼2	
	感性をはかる	1前	2			1						兼1	
	コミュニケーションと記号論	1後	2									兼2	
	小計(3科目)	—	6	0	0	2	0	0	0	0	0	兼4	
職業専門科目	実習科目	2通	5			12	2	6	2			兼14	
	臨地実務実習Ⅰ【臨】	3通	7.5			12	2	6	2			兼14	
	臨地実務実習Ⅱ【臨】	4通	7.5			12	2	6	2			兼14	
	ソリューション開発Ⅰ【※】	3後	2			6	1	4	1				
	ソリューション開発Ⅱ【※】	4前	4			6	2	4	1				
	小計(5科目)	—	26	0	0	12	2	6	2	0	0	兼14	
実習科目A群	人工知能システム開発Ⅰ【※】	2前	2			1							
	メディア情報処理実習【※】	2後	1			2							
	人工知能システム開発Ⅱ【※】	3前	3			2							
	人工知能応用【※】	3後	2			1			1				
	小計(4科目)	—	0	8	0	4	0	0	0	1	0	0	
実習科目B群	IoTシステム開発Ⅰ【※】	2前	3			1	1						
	IoTシステム開発Ⅱ【※】	3前	3			2							
	IoTサービスデザイン【※】	3後	2			1		1					
	小計(3科目)	—	0	8	0	3	1	1	0	0	0	0	
実習科目C群	組込みシステム制御実習【※】	2前	3			1							
	自動制御機械開発実習【※】	3前	3			1		2					
	産業用ロボット実習【※】	3後	2			1		1					
	小計(3科目)	—	0	8	0	2	1	2	0	0	0	0	
講義・演習科目	情報工学概論	1前	2			4							
	デザインエンジニアリング概論	1前	3			1							
	C言語基礎	1前	3						1	1			
	エレクトロニクス工学	1前	3									兼1	
	コンピュータシステム	1前	2			1							
	情報数学	1後	2							1			
	線形代数	1後	2						3			兼1	
	解析学	1後	2						3			兼1	
	組込みC、C++言語	1後	3						1				
	回路・プリント基板設計	1後	3					1					
	確率統計論	2前	2							1			
	プログラミング概論	2前	1.5			1			1	1			
	データベース基礎と応用	2前	2			1							
	技術英語	3前	2			1						兼1	
	ソフトウェアシステム開発	3前	2			2			1				
	情報セキュリティ応用	3前	2			1							
小計(16科目)	—	37	0	0	11	0	4	2	0	0	兼3		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任											
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手												
職業専門科目	A 講義・演習科目	人工知能基礎	2前	1.5						1												
		自然言語処理	2前	1.5		1																
		人工知能数学	2前	1.5		1																
		機械学習	2後	2		1																
		深層学習	3前	2		1																
		画像・音声認識	3前	2		1																
	小計(6科目)	—	0	11	0	4	0	0	1	0	0											
	B 講義・演習科目	デバイス・ネットワーク	2後	1.5		1																
		IoTデバイスプログラミングⅠ	2後	1		1																
		IoTデバイスプログラミングⅡ	2後	1		1																
		サーバ・ネットワーク	3前	1.5		1																
		IoTデバイスプログラミングⅢ	3前	2		1																
		小計(5科目)	—	0	7	0	3	0	0	0	0	0										
	C 講義・演習科目	力学	1後	2		1						兼1										
		材料力学・材料工学	2後	2																		
機械設計		2後	2		1																	
ロボット機構		3前	2		1																	
ロボット制御		3前	2		1																	
小計(5科目)		—	0	10	0	1	0	0	1	0	0	兼1										
群科講義・演習	Pythonプログラミング	1後	1.5						1													
	データ解析	3前	1.5			1																
小計(2科目)	—	0	3	0	0	1	0	1	0	0												
群科講義・演習	制御工学基礎	2前	2		1																	
	センサ・アクチュエータ	2前	2			1																
小計(2科目)	—	0	4	0	1	1	0	0	0	0												
展開科目	企画・発想法	1前	1.5								兼1											
	プロジェクトマネジメント	1後	2								兼1											
	地域共創デザイン実習【※】	2通	6		2	1					兼2											
	チームワークとリーダーシップ	2後	1.5								兼1											
	知的財産権論	3前	2								兼1											
	グローバル市場化戦略	3後	2		1																	
	企業経営論	3後	2								兼1											
	持続可能な社会	4前	2								兼1											
	ベンチャー起業経営	4前	1.5								兼1											
小計(9科目)	—	21	0	0	3	1	0	0	0	0	兼7											
科総目合	卒業研究制作	4通	4			12																
	小計(16科目)	—	4			12	0	0	0	0	0											
合計(73科目)												—	107	59	0	14	2	3	1	0	0	兼21
卒業要件及び履修方法																						
基礎科目 必修科目 20単位																						
職業専門科目 実習科目 必修科目 26単位																						
選択必修科目 8単位以上(A～C群の内、1つを選択)																						
講義・演習科目 必修科目 36.5単位																						
選択必修科目 9単位以上(A～C群の内、1つを選択)																						
展開科目 20.5単位																						
総合科目 4単位																						
以上、合計124単位以上を取得。																						
※1 実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはならない。																						
※2 A～C群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定する。コースコア科目については、履修要項などで別途定める。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たさない。																						

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任											
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手												
職業専門科目	A 講義・演習科目	人工知能基礎	2前	1.5							1											
		自然言語処理	2前	1.5		1				1												
		人工知能数学	2前	1.5		1																
		機械学習	2後	2		1					1											
		深層学習	3前	2		1																
		画像・音声認識	3前	2		1																
	小計(6科目)	—	0	11	0	4	0	0	1	2	0	0										
	B 講義・演習科目	デバイス・ネットワーク	2後	1.5		1																
		IoTデバイスプログラミングⅠ	2後	1		1																
		IoTデバイスプログラミングⅡ	2後	1		1																
		サーバ・ネットワーク	3前	1.5		1				1												
		IoTデバイスプログラミングⅢ	3前	2		1																
		小計(5科目)	—	0	7	0	2	0	0	1	0	0	0									
	C 講義・演習科目	力学	1後	2		1				1												
		材料力学・材料工学	2後	2								兼1										
機械設計		2後	2		1				2													
ロボット機構		3前	2		1																	
ロボット制御		3前	2		1																	
小計(5科目)		—	0	10	0	1	0	0	2	0	0	兼1										
群科講義・演習	Pythonプログラミング	1後	1.5							1												
	データ解析	3前	1.5			1																
小計(2科目)	—	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0											
群科講義・演習	制御工学基礎	2前	2		1				1													
	センサ・アクチュエータ	2前	2			1																
小計(2科目)	—	0	4	0	0	1	1	1	0	0	0											
展開科目	企画・発想法	1前	1.5								兼3											
	プロジェクトマネジメント	1後	2								兼1											
	地域共創デザイン実習【※】	2通	6		2	1			4	1	2	1										
	チームワークとリーダーシップ	2後	1.5								兼1											
	知的財産権論	3前	2								兼1											
	グローバル市場化戦略	3後	2		1				1													
	企業経営論	3後	2								兼2											
	持続可能な社会	4前	2								兼1											
	ベンチャー起業経営	4前	1.5								兼1											
小計(9科目)	—	21	0	0	3	1	0	2	1	0	兼12											
科総目合	卒業研究制作	4通	4						11													
	小計(16科目)	—	4						11	0	0	0										
合計(73科目)												—	107	59	0	12	2	7	2	0	0	兼35
卒業要件及び履修方法																						
基礎科目 必修科目 20単位																						
職業専門科目 実習科目 必修科目 26単位																						
選択必修科目 8単位以上(A～C群の内、1つを選択)																						
講義・演習科目 必修科目 36.5単位																						
選択必修科目 9単位以上(A～C群の内、1つを選択)																						
展開科目 20.5単位																						
総合科目 4単位																						
以上、合計124単位以上を取得。																						
※1 実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはならない。																						
※2 A～C群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定する。コースコア科目については、履修要項などで別途定める。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たさない。																						

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	グローバルコミュニケーション科	英語コミュニケーションⅠa	1前	2				1				兼6
		英語コミュニケーションⅠb	1後	2				1				兼6
		英語コミュニケーションⅡa	2前	2				1				兼6
		英語コミュニケーションⅡb	2後	1				1				兼6
		英語コミュニケーションⅢa	3前	2				1				兼5
		英語コミュニケーションⅢb	3後	1				1				兼5
		英語コミュニケーションⅣ	4前	1				1				兼4
	小計(7科目)	—	11	0	0	0	0	1	0	0		兼9
	スキルシヨニ	コミュニケーションツール	1後	1								兼1
		小計(1科目)	—	1	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	目倫理科	社会と倫理	3前	2								兼1
		小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	基盤科目	比較文化論	1前	2			1					兼1
		感性をはかる	1前	2			1					兼1
		コミュニケーションと記号論	1後	2								兼1
		小計(3科目)	—	6	0	0	2	0	0	0	0	兼2
職業専門科目	実習科目	臨地実務実習Ⅰ【臨】	2通	5			2		3			兼3
		臨地実務実習Ⅱ【臨】	3通	7.5			4		1			兼4
		臨地実務実習Ⅲ【臨】	4通	7.5			1		3	1		兼4
		ソリューション開発Ⅰ【※】	3後	2			2	1				
		ソリューション開発Ⅱ【※】	4前	4			1	2	1			
	小計(5科目)	—	26	0	0	8	2	4	1	0		兼8
実習科目A群	人工知能システム開発Ⅰ【※】	2前	2			1						
	メディア情報処理実習【※】	2後	1			2						
	人工知能システム開発Ⅱ【※】	3前	3			2						
	人工知能応用【※】	3後	2			1			1			
小計(4科目)	—	0	8	0	4	0	0	1	0	0	0	
実習科目B群	IoTシステム開発Ⅰ【※】	2前	3			1	1					
	IoTシステム開発Ⅱ【※】	3前	3			2						
	IoTサービスデザイン【※】	3後	2			1	1					
	小計(3科目)	—	0	8	0	3	1	1	0	0	0	0
実習科目C群	組込みシステム制御実習【※】	2前	3			1						
	自動制御機械開発実習【※】	3前	3			1		2				
	産業用ロボット実習【※】	3後	2			1						
	小計(3科目)	—	0	8	0	2	1	2	0	0	0	0
講義・演習科目	情報工学概論	1前	2			4						
	デザインエンジニアリング概論	1前	3			1					兼1	
	C言語基礎	1前	3								兼2	
	エレクトロニクス工学	1前	3								兼1	
	コンピュータシステム	1前	2			1					兼1	
	情報数学	1後	2								兼1	
	線形代数	1後	2								兼1	
	解析学	1後	2								兼1	
	組込みC、C++言語	1後	3					1				
	回路・プリント基板設計	1後	3			1						
	確率統計論	2前	2								兼1	
	プログラミング概論	2前	1.5			1		1	1			
	データベース基礎と応用	2前	2			1						
	技術英語	3前	2			1						
	ソフトウェアシステム開発	3前	2			2		1				
	情報セキュリティ応用	3前	2			1						
小計(16科目)	—	37	0	0	11	0	1	1	0	0	兼5	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	グローバルコミュニケーション科	英語コミュニケーションⅠa	1前	2					1			兼3
		英語コミュニケーションⅠb	1後	2					1			兼3
		英語コミュニケーションⅡa	2前	2					1			兼4
		英語コミュニケーションⅡb	2後	1					1			兼4
		英語コミュニケーションⅢa	3前	2					1			兼4
		英語コミュニケーションⅢb	3後	1					1			兼4
		英語コミュニケーションⅣ	4前	1					1			兼4
	小計(7科目)	—	11	0	0	0	0	1	0	0		兼8
	スキルシヨニ	コミュニケーションツール	1後	1								兼1
		小計(1科目)	—	1	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	目倫理科	社会と倫理	3前	2								兼1
		小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	基盤科目	比較文化論	1前	2					1			兼1
		感性をはかる	1前	2					1			兼1
		コミュニケーションと記号論	1後	2								兼1
		小計(3科目)	—	6	0	0	2	0	0	0	0	兼2
職業専門科目	実習科目	臨地実務実習Ⅰ【臨】	2通	5			2		3			兼3
		臨地実務実習Ⅱ【臨】	3通	7.5			4		1			兼4
		臨地実務実習Ⅲ【臨】	4通	7.5			1		3	1		兼4
		ソリューション開発Ⅰ【※】	3後	2			2	1				
		ソリューション開発Ⅱ【※】	4前	4			1	2	1			
	小計(5科目)	—	26	0	0	8	2	4	3	1	0	兼8
実習科目A群	人工知能システム開発Ⅰ【※】	2前	2			1						
	メディア情報処理実習【※】	2後	1			2						
	人工知能システム開発Ⅱ【※】	3前	3			2						
	人工知能応用【※】	3後	2			1			1			
小計(4科目)	—	0	8	0	4	0	0	1	0	0	0	
実習科目B群	IoTシステム開発Ⅰ【※】	2前	3			1	1					
	IoTシステム開発Ⅱ【※】	3前	3			2						
	IoTサービスデザイン【※】	3後	2			1	1					
	小計(3科目)	—	0	8	0	3	1	0	0	0	0	0
実習科目C群	組込みシステム制御実習【※】	2前	3			1						
	自動制御機械開発実習【※】	3前	3			1		2				
	産業用ロボット実習【※】	3後	2			1						
	小計(3科目)	—	0	8	0	2	1	0	0	0	0	0
講義・演習科目	情報工学概論	1前	2			4						
	デザインエンジニアリング概論	1前	3			1					兼1	
	C言語基礎	1前	3								兼2	
	エレクトロニクス工学	1前	3								兼1	
	コンピュータシステム	1前	2			1					兼1	
	情報数学	1後	2								兼1	
	線形代数	1後	2								兼1	
	解析学	1後	2								兼1	
	組込みC、C++言語	1後	3					1				
	回路・プリント基板設計	1後	3			1						
	確率統計論	2前	2								兼1	
	プログラミング概論	2前	1.5			1		1	1			
	データベース基礎と応用	2前	2			1						
	技術英語	3前	2			1						
	ソフトウェアシステム開発	3前	2			2		1				
	情報セキュリティ応用	3前	2			1						
小計(16科目)	—	37	0	0	11	0	1	1	0	0	兼5	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
職業専門科目	A 講義・演習科目	人工知能基礎	2前	1.5									
		自然言語処理	2前	1.5			1						
		人工知能数学	2前	1.5			1						
		機械学習	2後	2			1						
		深層学習	3前	2			1						
		画像・音声認識	3前	2			1						
	小計(6科目)	—	0	11	0	4	0	0	1	0	0	0	
	B 講義・演習科目	デバイス・ネットワーク	2後	1.5			1						
		IoTデバイスプログラミングⅠ	2後	1			1						
		IoTデバイスプログラミングⅡ	2後	1			1						
		サーバ・ネットワーク	3前	1.5					1				
		IoTデバイスプログラミングⅢ	3前	2			1						
	小計(5科目)	—	0	7	0	2	0	1	0	0	0	0	
	C 講義・演習科目	力学	1後	2			1						兼1
		材料力学・材料工学	2後	2									兼1
機械設計		2後	2			1							
ロボット機構		3前	2			1							
ロボット制御		3前	2			1							
小計(5科目)	—	0	10	0	1	0	0	0	0	0	兼1		
群科講義共通A・演習B	Pythonプログラミング	1後	1.5					1					
	データ解析	3前	1.5					1					
小計(2科目)	—	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0		
群科講義共通B・演習C	制御工学基礎	2前	2					1					
	センサ・アクチュエータ	2前	2					1					
小計(2科目)	—	0	4	0	0	1	1	0	0	0	0		
展開科目	企画・発想法	1前	1.5									兼2	
	プロジェクトマネジメント	1後	2									兼1	
	地域共創デザイン実習【※】	2通	6			2	1	1				兼2	
	チームワークとリーダーシップ	2後	1.5									兼1	
	知的財産権論	3前	2									兼1	
	グローバル市場化戦略	3後	2			1							
	企業経営論	3後	2									兼1	
	持続可能な社会	4前	2									兼1	
	ベンチャー起業経営	4前	1.5									兼1	
小計(9科目)	—	21	0	0	3	1	1	0	0	0	兼8		
科総目合	卒業研究制作	4通	4				11	0	0	0	0		
	小計(1科目)	—	4				11	0	0	0	0	0	
合計(73科目)	—	107	59	0	13	2	5	1	0	0	兼32		
卒業要件及び履修方法													
基礎科目 必修科目 20単位													
職業専門科目 実習科目 必修科目 26単位													
選択必修科目 8単位以上(A～C群の内、1つを選択)													
講義・演習科目 必修科目 36.5単位													
選択必修科目 9単位以上(A～C群の内、1つを選択)													
展開科目 20.5単位													
総合科目 4単位													
以上、合計124単位以上を取得。													
※1 実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはならない。													
※2 A～C群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定する。コースコア科目については、履修要項などで別途定める。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たさない。													

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
職業専門科目	A 講義・演習科目	人工知能基礎	2前	1.5									
		自然言語処理	2前	1.5			1						
		人工知能数学	2前	1.5			1						
		機械学習	2後	2			1						
		深層学習	3前	2			1						
		画像・音声認識	3前	2			1						
	小計(6科目)	—	0	11	0	4	0	0	1	0	0	0	
	B 講義・演習科目	デバイス・ネットワーク	2後	1.5			1						
		IoTデバイスプログラミングⅠ	2後	1			1						
		IoTデバイスプログラミングⅡ	2後	1			1						
		サーバ・ネットワーク	3前	1.5					1				
		IoTデバイスプログラミングⅢ	3前	2			1						
	小計(5科目)	—	0	7	0	2	0	0	0	0	0	0	
	C 講義・演習科目	力学	1後	2			1						兼1
		材料力学・材料工学	2後	2									兼1
機械設計		2後	2			1							
ロボット機構		3前	2			1							
ロボット制御		3前	2			1							
小計(5科目)	—	0	10	0	1	0	0	0	0	0	兼1		
群科講義共通A・演習B	Pythonプログラミング	1後	1.5						1				
	データ解析	3前	1.5					1					
小計(2科目)	—	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0		
群科講義共通B・演習C	制御工学基礎	2前	2						1				
	センサ・アクチュエータ	2前	2					1					
小計(2科目)	—	0	4	0	0	1	1	0	0	0	0		
展開科目	企画・発想法	1前	1.5									兼2	
	プロジェクトマネジメント	1後	2									兼1	
	地域共創デザイン実習【※】	2通	6			2	1	1				兼2	
	チームワークとリーダーシップ	2後	1.5									兼1	
	知的財産権論	3前	2									兼1	
	グローバル市場化戦略	3後	2			1							
	企業経営論	3後	2									兼1	
	持続可能な社会	4前	2									兼1	
	ベンチャー起業経営	4前	1.5									兼1	
小計(9科目)	—	21	0	0	3	1	1	0	0	0	兼7		
科総目合	卒業研究制作	4通	4				11	0	0	0	0		
	小計(1科目)	—	4				11	0	0	0	0	0	
合計(73科目)	—	107	59	0	13	2	4	1	0	0	兼30		
卒業要件及び履修方法													
基礎科目 必修科目 20単位													
職業専門科目 実習科目 必修科目 26単位													
選択必修科目 8単位以上(A～C群の内、1つを選択)													
講義・演習科目 必修科目 36.5単位													
選択必修科目 9単位以上(A～C群の内、1つを選択)													
展開科目 20.5単位													
総合科目 4単位													
以上、合計124単位以上を取得。													
※1 実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはならない。													
※2 A～C群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定する。コースコア科目については、履修要項などで別途定める。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たさない。													

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	グローバルコミュニケーション科	英語コミュニケーションⅠa	1前	2					1			兼3	
		英語コミュニケーションⅠb	1後	2					1			兼3	
		英語コミュニケーションⅡa	2前	2					1			兼4	
		英語コミュニケーションⅡb	2後	1					1			兼4	
		英語コミュニケーションⅢa	3前	2					1			兼4	
		英語コミュニケーションⅢb	3後	1					1			兼4	
		英語コミュニケーションⅣ	4前	1					1			兼4	
	小計(7科目)	—	11	0	0	0	0	1	0	0	0	兼6	
	スキルシヨニ目	コミュニケーションツール	1後	1									兼1
		小計(1科目)	—	1	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	目倫理科	社会と倫理	3前	2									兼1
		小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	基盤科目	比較文化論	2前	2			1						
		感性をはかる	1前	2			1						
コミュニケーションと記号論		1後	2									兼1	
小計(3科目)		—	6	0	0	2	0	0	0	0	0	兼1	
職業専門科目	実習科目	臨地実務実習Ⅰ【臨】	2通	5			2		3			兼2	
		臨地実務実習Ⅱ【臨】	3通	7.5			4		1			兼3	
		臨地実務実習Ⅲ【臨】	4通	7.5			2		2	1		兼3	
		ソリューション開発Ⅰ【※】	3後	2			2	1					
		ソリューション開発Ⅱ【※】	4前	4			1	2	1				
		小計(5科目)	—	26	0	0	9	2	3	1	0	0	兼6
	実習科目A群	人工知能システム開発Ⅰ【※】	2前	2			1						
		メディア情報処理実習【※】	2後	1			2						
		人工知能システム開発Ⅱ【※】	3前	3			2						
		人工知能応用【※】	3後	2			1			1			
		小計(4科目)	—	0	8	0	4	0	0	1	0	0	0
	実習科目B群	IoTシステム開発Ⅰ【※】	2前	3			1	1					
		IoTシステム開発Ⅱ【※】	3前	3			2						
		IoTサービスデザイン【※】	3後	2			2						
小計(3科目)		—	0	8	0	4	1	0	0	0	0	0	
実習科目C群	組込みシステム制御実習【※】	2前	3			1							
	自動制御機械開発実習【※】	3前	3			1							
	産業用ロボット実習【※】	3後	2				1						
	小計(3科目)	—	0	8	0	2	1	0	0	0	0	0	
講義・演習科目	情報工学概論	1前	2			3							
	デザインエンジニアリング概論	1前	3			1							
	C言語基礎	1前	3									兼1	
	エレクトロニクス工学	1後	3									兼2	
	コンピュータシステム	1前	2			1							
	情報数学	1後	2									兼1	
	線形代数	1後	2									兼1	
	解析学	1後	2									兼1	
	組込みC、C++言語	1後	3					1					
	回路・プリント基板設計	1後	3			1							
	確率統計論	2前	2									兼1	
	プログラミング概論	2前	1.5			1		1	1				
	データベース基礎と応用	2前	2			1							
	技術英語	3前	2			1							
	ソフトウェアシステム開発	3前	2			2		1					
	情報セキュリティ応用	3前	2			1							
小計(16科目)	—	37	0	0	10	0	1	1	1	0	0	兼5	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任										
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手											
職業専門科目	A 講義・演習科目	人工知能基礎	2前	1.5																	
		自然言語処理	2前	1.5			1														
		人工知能数学	2前	1.5			1				1										
		機械学習	2後	2			1														
		深層学習	3前	2			1														
		画像・音声認識	3前	2			1														
	小計(6科目)	—	0	11	0	4	0	0	1	0	0										
	B 講義・演習科目	デバイス・ネットワーク	2後	1.5			1														
		IoTデバイスプログラミングⅠ	2後	1			1														
		IoTデバイスプログラミングⅡ	2後	1			1														
		サーバ・ネットワーク	3前	1.5			1														
		IoTデバイスプログラミングⅢ	3前	2			1														
	小計(5科目)	—	0	7	0	3	0	0	0	0	0										
	C 講義・演習科目	力学	1後	2			1														
		材料力学・材料工学	2後	2								兼1									
		機械設計	2後	2			1														
		ロボット機構	3前	2			1														
		ロボット制御	3前	2			1														
小計(5科目)	—	0	10	0	1	0	0	0	0	0											
群科講義・演習科目 A・B	Pythonプログラミング	1後	1.5						1												
	データ解析	3前	1.5				1														
	小計(2科目)	—	0	3	0	0	1	0	1	0	0										
群科講義・演習科目 B・C	制御工学基礎	2前	2					1													
	センサ・アクチュエータ	2前	2				1														
	小計(2科目)	—	0	4	0	0	1	1	0	0	0										
展開科目	企画・発想法	1前	1.5								兼2										
	プロジェクトマネジメント	1後	2								兼1										
	地域共創デザイン実習【※】	2通	6			2	1	1			兼2										
	チームワークとリーダーシップ	2後	1.5								兼1										
	知的財産権論	3前	2								兼1										
	グローバル市場化戦略	3後	2			1															
	企業経営論	3後	2								兼1										
	持続可能な社会	4前	2								兼1										
	ベンチャー起業経営	4前	1.5								兼1										
小計(9科目)	—	21	0	0	3	1	1	0	0	0											
科総目合	卒業研究制作	4通	4			12															
	小計(16科目)	—	4			12	0	0	0	0	0										
合計(73科目)												—	107	59	0	14	2	4	1	0	兼26
卒業要件及び履修方法																					
基礎科目 必修科目 20単位																					
職業専門科目 実習科目 必修科目 26単位 選択必修科目 8単位以上(A～C群の内、1つを選択)																					
講義・演習科目 必修科目 36.5単位 選択必修科目 9単位以上(A～C群の内、1つを選択)																					
展開科目 20.5単位 総合科目 4単位																					
以上、合計124単位以上を取得。 ※1 実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはならない。 ※2 A～C群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定する。コースコア科目については、履修要項などで別途定める。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たさない。																					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「英語コミュニケーションIa」の教員の配置を「講師1、兼4」から「講師1、兼3」に変更。
- ・「英語コミュニケーションIb」の教員の配置を「講師1、兼4」から「講師1、兼3」に変更。
- ・担当教員逝去による教員差し替え対応のため、今年度のみ「比較文化論」の配当年次を「1前」から「2前」に変更し、教員の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
- ・基礎科目、基盤科目の小計を「教授1、兼2」から「教授2、兼1」へ変更。
- ・「臨地実務実習Ⅰ【臨】」の教員の配置を「教授2、講師2」から「教授2、講師3、兼2」に変更。
- ・「臨地実務実習Ⅱ【臨】」の教員の配置を「教授4、講師1」から「教授4、講師1、兼3」に変更。
- ・「臨地実務実習Ⅲ【臨】」の教員の配置を「教授2、講師2、助教1」から「教授2、講師2、助教1、兼3」に変更。
- ・「ソリューション開発Ⅱ【※】」の教員の配置を「教授1、准教授2」から「教授1、准教授2、講師1」に変更。
- ・職業専門科目、実習科目の小計を「教授9、准教授2、講師2、助教1」から「教授9、准教授2、講師3、助教1、兼6」に変更。
- ・新型コロナウイルスの影響による開講スケジュールの後ろ倒しから、学生の授業過密の影響のため、「エレクトロニクス工学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更し教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・職業専門科目、講義・演習科目の小計を「教授10、講師1、助教1、兼4」から「教授10、講師1、助教1、兼5」に変更。
- ・誤植のため、講義・演習科目C群の小計を「教授1、講師1、兼1」から「教授1、兼1」に変更。
- ・「制御工学基礎」の教員の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・職業専門科目、講義・演習科目B・C群共通の小計を「教授1、准教授1」から「准教授1、講師1」に変更。
- ・「企画・発想法」の教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・「地域共創デザイン実習」の教員の配置を「教授9、准教授1、兼2」から「教授2、准教授1、講師1、兼2」に変更。
- ・展開科目の小計を「教授3、准教授1、兼7」から「教授3、准教授1、講師1、兼7」に変更。
- ・合計を「教授14、准教授2、講師3、助教1、兼21」から「教授14、准教授2、講師4、助教1、兼26」に変更。

【令和3年度】

- ・基礎科目・グローバルコミュニケーション科目の小計を「講師1、兼6」から「講師1、兼8」に変更。
- ・「比較文化論」の配当年次を「2前」から「1前」に変更し認可時に戻した。教員の配置を「教授1」から「教授1、兼1」に変更。
- ・基礎科目、基礎科目の小計を「教授2、兼1」から「教授2、兼2」へ変更。
- ・「臨地実務実習Ⅰ【臨】」の教員の配置を「教授2、講師3、兼2」から「教授2、講師3、兼3」に変更。
- ・「臨地実務実習Ⅱ【臨】」の教員の配置を「教授4、講師1、兼3」から「教授4、講師1、兼4」に変更。
- ・「臨地実務実習Ⅲ【臨】」の教員の配置を「教授2、講師2、助教1、兼3」から「教授1、講師2、助教1、兼4」に変更。
- ・職業専門科目、実習科目の小計を「教授9、准教授2、講師3、助教1、兼6」から「教授8、准教授2、講師3、助教1、兼8」に変更。
- ・「IoTサービスデザイン」の教員の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・職業専門科目・実習科目B群の小計を「教授4、准教授1」から「教授3、准教授1」に変更。
- ・「情報工学概論」の教員の配置を「教授3」から「教授4」に変更。
- ・エレクトロニクス工学の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・職業専門科目・講義・演習科目の小計を「教授10、講師1、助教1、兼5」から「教授11、講師1、助教1、兼5」に変更。
- ・「サーバ・ネットワーク」の教員の配置を「教授1」から空白に変更。
- ・職業専門科目・講義・演習科目B群の小計を「教授3」から「教授2」に変更。
- ・「卒業研究制作」の教員の配置を「教授12」から「教授11」に変更。
- ・総合科目の小計を「教授12」から「教授11」に変更。
- ・誤植の為、総合科目小計（16科目）を総合科目の小計（1科目）に修正。
- ・合計を「教授14、准教授2、講師4、助教1、兼26」から「教授13、准教授2、講師4、助教1、兼30」に変更。

【令和4年度】

- ・「英語コミュニケーションIa」の教員の配置を「講師1、兼3」から「講師1、兼6」に変更。
- ・「英語コミュニケーションIb」の教員の配置を「講師1、兼3」から「講師1、兼6」に変更。
- ・「英語コミュニケーションIIa」の教員の配置を「講師1、兼4」から「講師1、兼6」に変更。
- ・「英語コミュニケーションIIb」の教員の配置を「講師1、兼4」から「講師1、兼6」に変更。
- ・「英語コミュニケーションIIIa」の教員の配置を「講師1、兼4」から「講師1、兼5」に変更。
- ・「英語コミュニケーションIIIb」の教員の配置を「講師1、兼4」から「講師1、兼5」に変更。
- ・基礎科目・グローバルコミュニケーション科目の小計を「講師1、兼8」から「講師1、兼9」に変更。
- ・「臨地実務実習Ⅲ【臨】」の教員の配置を「教授1、講師2、助教1、兼4」から「教授1、講師3、助教1、兼4」に変更。
- ・職業専門科目・実習科目の小計を「教授8、准教授2、講師3、助教1、兼8」から「教授8、准教授2、講師4、助教1、兼8」に変更。
- ・「IoTサービスデザイン」の教員の配置を「教授1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・職業専門科目・実習科目B群の小計を「教授3、准教授1」から「教授3、准教授1、講師1」に変更。
- ・「自動制御機械開発実習」の教員の配置を「教授1」から「教授2、講師2」に変更。
- ・職業専門科目・実習科目C群の小計を「教授2、准教授1」から「教授3、准教授1、講師2」に変更。
- ・「サーバ・ネットワーク」の教員の配置を空白から「講師1」に変更。
- ・職業専門科目・講義・演習科目B群の小計を「教授2」から「教授2、講師1」に変更。
- ・「企業経営論」の教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・展開科目の小計を「教授3、准教授1、講師1、兼7」から「教授3、准教授1、講師1、兼8」に変更。
- ・合計を「教授13、准教授2、講師4、助教1、兼30」から「教授13、准教授2、講師5、助教1、兼32」に変更。

【令和5年度】

- ・「英語コミュニケーションⅢa」の教員の配置を「講師1、兼5」から「講師1、兼6」に変更。
- ・「英語コミュニケーションⅢb」の教員の配置を「講師1、兼5」から「講師1、兼6」に変更。
- ・「英語コミュニケーションⅣ」の教員の配置を「講師1、兼4」から「講師1、兼6」に変更。
- ・基礎科目・グローバルコミュニケーション科目の小計を「講師1、兼9」から「講師1、兼8」に変更。
- ・「比較文化論」の教員の配置を「教授1、兼1」から「教授1、兼2」に変更。
- ・「感性をはかる」の教員の配置を「教授1」から「教授1、兼1」に変更。
- ・「コミュニケーションと記号論」の教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・基礎科目・基礎科目の小計を「教授2、兼2」から「教授2、兼4」に変更。
- ・「臨地実務実習Ⅰ【臨】」の教員の配置を「教授2、講師3、兼3」から「教授12、准教授2、講師6、助教2、兼14」に変更。
- ・「臨地実務実習Ⅱ【臨】」の教員の配置を「教授4、講師1、兼4」から「教授12、准教授2、講師6、助教2、兼14」に変更。
- ・「臨地実務実習Ⅲ【臨】」の教員の配置を「教授1、講師3、助教1、兼4」から「教授12、准教授2、講師6、助教2、兼14」に変更。
- ・「ソリューション開発Ⅰ」の教員の配置を「教授2、准教1」から「教授6、准教1、講師4、助教1」に変更。
- ・「ソリューション開発Ⅱ」の教員の配置を「教授1、准教授2、講師1」から「教授6、准教授2、講師4、助教1」に変更。
- ・職業専門科目・実習科目の小計を「教授8、准教授2、講師4、助教1、兼8」から「教授12、准教授2、講師6、助教2、兼14」に変更。
- ・「産業用ロボット実習【※】」の教員の配置を「准教授1」から「准教授1、講師1」に変更。
- ・「C言語基礎」の教員の配置を「兼1」から「講師1、助教1」に変更。
- ・「エレクトロニクス工学」の教員の配置を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・「情報数学」の教員の配置を「兼1」から「助教1」に変更。
- ・「線形代数」の教員の配置を「兼1」から「講師3、兼1」に変更。
- ・「解析学」の教員の配置を「兼1」から「講師3、兼1」に変更。
- ・「確率統計論」の教員の配置を「兼1」から「講師1」に変更。
- ・「技術英語」の教員の配置を「教授1」から「教授1、兼1」に変更。
- ・職業専門科目・講義・演習科目の小計を「教授11、講師1、助教1、兼5」から「教授11、講師4、助教2、兼3」に変更。
- ・「自然言語処理」の教員の配置を「教授1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・「機械学習」の教員の配置を「教授1」から「教授1、助教1」に変更。
- ・職業専門科目・講義・演習科目A群の小計を「教授4、助教1」から「教授4、講師1、助教2」に変更。
- ・「力学」の教員の配置を「教授1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・「機械設計」の教員の配置を「教授1」から「教授1、講師2」に変更。
- ・職業専門科目・講義・演習科目C群の小計を「教授1、兼1」から「教授1、講師1、兼1」に変更。
- ・「企画・発想法」の教員の配置を「兼2」から「兼3」に変更。
- ・「地域共創デザイン実習【※】」の教員の配置を「教授2、准教授1、講師1、兼2」から「教授4、准教授1、講師2、助教1、兼5」に変更。
- ・展開科目の小計を「教授3、准教授1、講師1、兼8」から「教授5、准教授1、講師2、助教1、兼12」に変更。
- ・合計を「教授13、准教授2、講師5、助教1、兼32」から「教授12、准教授2、講師7、助教2、兼35」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
43 科目	30 科目	0 科目	73 科目	43 科目 [-]	30 科目 [-]	0 科目 [-]	73 科目 [-]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{73} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備 考
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	以下の大学、専修学校と共用。
	校舎敷地	0 m ²	5,172 m ²	0 m ²	5,172 m ²	東京国際工科専門職大学 (収容定員：800人) (基準8,000 m ²) 東京通信大学 (収容定員：4,000人) (基準 - m ²)
	運動場用地	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	国際ファッション専門職大学 (収容定員：478人) (基準：4,780m ²) 東京モード学園 1,880 1,845 (収容定員：1,325名) (基準 - m ²)
	小 計	0 m ²	5,172 m ²	0 m ²	5,172 m ²	H A L 東京 1,900 (収容定員：1,540人) (基準 - m ²)
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	首都医校 2,207 2,217 2,357 2,277 (収容定員：1,875人) (基準 - m ²)
	合 計	0 m ²	5,172 m ²	0 m ²	5,172 m ²	収容定員の訂正(昼→昼夜)、および専修学校の定員変更(2) 専修学校の定員変更(3) 専修学校の定員変更(4) 専修学校の定員変更(5)
(2)	校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	以下の大学、専修学校と共用。
		7,136 m ² (3,155 m ²)	13,366 m ² (15,032m ²)	41,139 m ² (43,454m ²)	61,641 m ² (61,641m ²)	東京国際工科専門職大学 (専用：7,136m ²) (基準：9,553m ²) 東京通信大学 (専用：5,289m ²) (基準：12,440m ²) 国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 ファッションリエイション学科、 ファッションビジネス学科 (専用：2,309m ²) (基準：3,537m ²) 東京モード学園 6,222 6,149 (専用：6,523m ²) 4,235 4,148 (基準：3,673m ²) H A L 東京 8,072 7,902 6,608 (専用：6,226m ²) (基準：4,760m ²) 首都医校 16,353 16,524 17,889 (専用：18,898m ²) 4,851 4,866 5,016 4,776 (基準：5,790m ²) 39,376 39,391 39,541 39,214 基準合計：39,753m ² 専修学校の定員変更、および校舎 面積変更(2) 専修学校の定員変更及び校舎面積 変更(3) 専修学校の定員変更及び校舎面積 変更(4) 専修学校の定員変更及び校舎面積 変更(5)

(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	7室	9室	3室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室数					
	工科学部 情報工学科 デジタルエンタテインメント学科			38室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書は同居する学校と共有する。新規追加は電子書籍を主体とする。学生はポータルサイト経由で時間の制約なく個人のパソコン、スマートフォン等で電子書籍をダウンロードし、閲覧が可能。 廃刊書籍の代替選定による納品遅延、導入図書等を再度見直し。および別大学の申請計画変更による該当大学に關係する書籍購入計画の遅れ。(2)教育環境の充実(3)	
	工科学部	74,802 [4,492] 60,576 5,723 60,518 5,716 (65,774 [4,432])	25 206 [15] 181 24 (206 [15])	16 (45 [15]) 14 (15 [15])	818 768 803 (747)	8,655 (7,785)	0 (0)		
	計	74,802 [4,492] 60,576 5,723 60,518 5,716 (65,774 [4,432])	25 206 [15] 181 24 (206 [15])	16 (45 [15]) 14 (15 [15])	768 803 (747)	8,655 (7,785)	0 (0)		
(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数				
	693.16 m ²		206		45,646				
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	0 m ²		トレーニングルーム 147.11m ² -						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	消費税増税による金額変更、廃刊書籍の代替選定による納品遅延、新型コロナウイルスの影響による納期遅れ(2)
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	8,051千円 10,000千円	2,214千円 1,110千円	1,110千円	
	共同研究費等	1,800千円	1,800千円	設備購入費	508,594千円 1,811,516千円	469,914千円 117,841千円	0千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1740千円	第2年次 1500千円	第3年次 1560千円	第4年次 1620千円	第5年次 —千円	第6年次 —千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			収益事業・手数料収入・雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し**修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に**赤字**で記入してください。
なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	東京国際工科専門職大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
工科学部																		
情報工学科	4	120	-	480	情報工学士(専門職)	1.11	-	1.04	-	-	令和2年	東京都新宿区西新宿1-7-3						
デジタルエンタテインメント学科	4	80	-	320	デジタルエンタテインメント学士(専門職)	1.16	-	1.10	-	-	令和2年	東京都新宿区西新宿1-7-3						
大学全体	4	200	-	800	-	-	-	-	-	-	-	-						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	齋藤 亜希 <令和2年4月> 修士(科学)	Pythonプログラミング プログラミング概論 人工知能基礎 人工知能応用 臨地実務実習Ⅲ
実専	講師	荒金 匡徳 <令和2年4月> 短期大学 卒	組込みC、C++言語 プログラミング概論 臨地実務実習Ⅰ ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅲ
実(研)	教授	鈴木 雅実 <令和2年4月> 博士(工学)	データベース基礎と応用 自然言語処理 メディア情報処理実習 技術英語 ソリューション開発Ⅰ 卒業研究制作
実(研)	教授	上條 浩一 <令和2年4月> 博士(工学)	情報工学概論 メディア情報処理実習 画像・音声認識 人工知能システム開発Ⅱ 人工知能応用 卒業研究制作

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	齋藤 亜希 <令和2年4月> 修士(科学)	Pythonプログラミング プログラミング概論 人工知能基礎 人工知能応用 臨地実務実習Ⅲ
実専	講師	荒金 匡徳 <令和2年4月> 短期大学 卒	組込みC、C++言語 プログラミング概論 臨地実務実習Ⅰ ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅲ
実(研)	教授	鈴木 雅実 <令和2年4月> 博士(工学)	比較文化論 データベース基礎と応用 自然言語処理 メディア情報処理実習 技術英語 ソリューション開発Ⅰ 卒業研究制作
実(研)	教授	上條 浩一 <令和2年4月> 博士(工学)	情報工学概論 メディア情報処理実習 画像・音声認識 人工知能システム開発Ⅱ 人工知能応用 卒業研究制作

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	児玉 實史 <令和4年2月> 博士(理学)	
専	助教	齋藤(塩尻) 亜希 <令和2年4月> 修士(科学)	Pythonプログラミング プログラミング概論 人工知能基礎 人工知能応用 臨地実務実習Ⅲ
実専	講師	荒金 匡徳 <令和2年4月> 短期大学 卒	組込みC、C++言語 プログラミング概論 臨地実務実習Ⅰ ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅲ
実(研)	教授	鈴木 雅実 <令和2年4月> 博士(工学)	比較文化論 データベース基礎と応用 自然言語処理 メディア情報処理実習 技術英語 ソリューション開発Ⅰ 卒業研究制作
実(研)	教授	上條 浩一 <令和2年4月> 博士(工学)	情報工学概論 メディア情報処理実習 画像・音声認識 人工知能システム開発Ⅱ 人工知能応用 卒業研究制作

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	児玉 實史 <令和4年2月> 博士(理学)	
専	助教	齋藤(塩尻) 亜希 <令和2年4月> 修士(科学)	Pythonプログラミング プログラミング概論 人工知能基礎 人工知能応用 臨地実務実習Ⅲ
実専	講師	荒金 匡徳 <令和2年4月> 短期大学 卒	組込みC、C++言語 プログラミング概論 臨地実務実習Ⅰ ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅲ
実(研)	教授	鈴木 雅実 <令和2年4月> 博士(工学)	比較文化論 データベース基礎と応用 自然言語処理 メディア情報処理実習 技術英語 ソリューション開発Ⅰ 卒業研究制作
実(研)	教授	上條 浩一 <令和2年4月> 博士(工学)	情報工学概論 メディア情報処理実習 画像・音声認識 人工知能システム開発Ⅱ 人工知能応用 卒業研究制作

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	児玉 實史 <令和4年2月> 博士(理学)	
専	助教	齋藤(塩尻) 亜希 <令和2年4月> 修士(科学)	Pythonプログラミング プログラミング概論 人工知能基礎 人工知能応用 臨地実務実習Ⅲ
実専	講師	荒金 匡徳 <令和2年4月> 短期大学 卒	組込みC、C++言語 プログラミング概論 臨地実務実習Ⅰ ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅲ
実(研)	教授	鈴木 雅実 <令和2年4月> 博士(工学)	比較文化論 データベース基礎と応用 自然言語処理 メディア情報処理実習 技術英語 ソリューション開発Ⅰ 卒業研究制作
実(研)	教授	上條 浩一 <令和2年4月> 博士(工学)	情報工学概論 メディア情報処理実習 画像・音声認識 人工知能システム開発Ⅱ 人工知能応用 卒業研究制作

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研)	教授(学部長)	藤井 竜也 <令和2年4月> 工学博士	情報工学概論 IoTシステム開発Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ IoTシステム開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	三宅 茂樹 <令和2年4月> 博士(科学)	プログラミング概論 人工知能数学 臨地実務実習Ⅰ 人工知能システム開発Ⅱ 深層学習 卒業研究制作
実(研)	教授	辻野 雅之 <令和2年4月> 修士(工学) 国際会計修士(専門職)	コンピュータシステム IoTデバイスプログラミングⅠ IoTシステム開発Ⅱ グローバル市場化戦略 卒業研究制作
実(研)	教授	菊間 一宏 <令和2年4月> 修士(理学)	サーバ、ネットワーク IoTサービスデザイン 臨地実務実習Ⅲ 卒業研究制作
実(研)	教授	愛川 知宏 <令和2年4月> 博士(工学)	情報セキュリティ応用 臨地実務実習Ⅱ IoTサービスデザイン ソリューション開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	武本 充治 <令和2年4月> 博士(工学)	デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングⅡ ソフトウェアシステム開発 IoTデバイスプログラミングⅢ 卒業研究制作
実(研)	准教授	山本 裕 <令和2年4月> 博士(工学)	IoTシステム開発Ⅰ データ解析 ソリューション開発Ⅰ ソリューション開発Ⅱ
実(研)	教授	小柳 栄次 <令和2年4月> 博士(工学)	自動制御機械開発実習 臨地実務実習Ⅱ ソリューション開発Ⅰ
実(研)	教授	広田 和洋 <令和2年4月> 工学博士	回路・プリント基板設計 組み込みシステム制御実習 臨地実務実習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研)	教授(学部長)	藤井 竜也 <令和2年4月> 工学博士	情報工学概論 IoTシステム開発Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ IoTシステム開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	三宅 茂樹 <令和2年4月> 博士(科学)	プログラミング概論 人工知能数学 臨地実務実習Ⅰ 人工知能システム開発Ⅱ 深層学習 卒業研究制作
実(研)	教授	辻野 雅之 <令和2年4月> 修士(工学) 国際会計修士(専門職)	コンピュータシステム IoTデバイスプログラミングⅠ IoTシステム開発Ⅱ グローバル市場化戦略 卒業研究制作
実(研)	教授	菊間 一宏 <令和2年4月> 博士(工学)	サーバ、ネットワーク IoTサービスデザイン 臨地実務実習Ⅲ 卒業研究制作
実(研)	教授	愛川 知宏 <令和2年4月> 博士(工学)	情報セキュリティ応用 臨地実務実習Ⅱ IoTサービスデザイン ソリューション開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	武本 充治 <令和2年4月> 博士(工学)	デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングⅡ ソフトウェアシステム開発 IoTデバイスプログラミングⅢ 卒業研究制作
実(研)	准教授	山本 裕 <令和2年4月> 博士(工学)	IoTシステム開発Ⅰ データ解析 ソリューション開発Ⅰ ソリューション開発Ⅱ
実(研)	教授	小柳 栄次 <令和2年4月> 博士(工学)	自動制御機械開発実習 臨地実務実習Ⅱ ソリューション開発Ⅰ
実(研)	教授	広田 和洋 <令和2年4月> 工学博士	回路・プリント基板設計 組み込みシステム制御実習 臨地実務実習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研)	教授(学部長)	藤井 竜也 <令和2年4月> 工学博士	情報工学概論 IoTシステム開発Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ IoTシステム開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	三宅 茂樹 <令和2年4月> 博士(科学)	プログラミング概論 人工知能数学 臨地実務実習Ⅰ 人工知能システム開発Ⅱ 深層学習 卒業研究制作
実(研)	教授	辻野 雅之 <令和2年4月> 修士(工学) 国際会計修士(専門職)	コンピュータシステム IoTデバイスプログラミングⅠ IoTシステム開発Ⅱ グローバル市場化戦略 卒業研究制作
実(研)	教授	愛川 知宏 <令和2年4月> 博士(工学)	情報セキュリティ応用 臨地実務実習Ⅱ IoTサービスデザイン ソリューション開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	武本 充治 <令和2年4月> 博士(工学)	デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングⅡ ソフトウェアシステム開発 IoTデバイスプログラミングⅢ 卒業研究制作
実(研)	准教授	山本 裕 <令和2年4月> 博士(工学)	IoTシステム開発Ⅰ データ解析 ソリューション開発Ⅰ ソリューション開発Ⅱ
実(研)	教授	小柳 栄次 <令和2年4月> 博士(工学)	自動制御機械開発実習 臨地実務実習Ⅱ ソリューション開発Ⅰ
実(研)	教授	広田 和洋 <令和2年4月> 工学博士	回路・プリント基板設計 組み込みシステム制御実習 臨地実務実習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研)	教授(学部長)	藤井 竜也 <令和2年4月> 工学博士	情報工学概論 IoTシステム開発Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ IoTシステム開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	三宅 茂樹 <令和2年4月> 博士(科学)	プログラミング概論 人工知能数学 臨地実務実習Ⅰ 人工知能システム開発Ⅱ 深層学習 卒業研究制作
実(研)	教授	辻野 雅之 <令和2年4月> 修士(工学) 国際会計修士(専門職)	コンピュータシステム IoTデバイスプログラミングⅠ IoTシステム開発Ⅱ グローバル市場化戦略 卒業研究制作
実(研)	教授	愛川 知宏 <令和2年4月> 博士(工学)	情報セキュリティ応用 臨地実務実習Ⅱ IoTサービスデザイン ソリューション開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	武本 充治 <令和2年4月> 博士(工学)	デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングⅡ ソフトウェアシステム開発 IoTデバイスプログラミングⅢ 卒業研究制作
実(研)	准教授	山本 裕 <令和2年4月> 博士(工学)	IoTシステム開発Ⅰ データ解析 ソリューション開発Ⅰ ソリューション開発Ⅱ
実(研)	教授	小柳 栄次 <令和2年4月> 博士(工学)	自動制御機械開発実習 臨地実務実習Ⅱ ソリューション開発Ⅰ
実(研)	教授	広田 和洋 <令和2年4月> 工学博士	回路・プリント基板設計 組み込みシステム制御実習 臨地実務実習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研)	教授(学部長)	藤井 竜也 <令和2年4月> 工学博士	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ IoTシステム開発Ⅰ IoTシステム開発Ⅱ 情報工学概論 地域共創デザイン実習 卒業研究制作
実(研)	教授	三宅 茂樹 <令和2年4月> 博士(科学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ IoTシステム開発Ⅰ ソリューション開発Ⅱ 人工知能システム開発Ⅱ プログラミング概論 人工知能数学 深層学習 卒業研究制作
実(研)	教授	辻野 雅之 <令和2年4月> 修士(工学) 国際会計修士(専門職)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ IoTシステム開発Ⅱ コンピュータシステム IoTデバイスプログラミングⅠ グローバル市場化戦略 卒業研究制作
実(研)	教授	愛川 知宏 <令和2年4月> 博士(工学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ ソリューション開発Ⅰ IoTシステム開発Ⅱ IoTサービスデザイン 情報セキュリティ応用 卒業研究制作
実(研)	教授	武本 充治 <令和2年4月> 博士(工学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ ソリューション開発Ⅰ ソリューション開発Ⅱ ソフトウェアシステム開発 デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングⅡ IoTデバイスプログラミングⅢ IoTデバイスプログラミングⅢ 卒業研究制作
実(研)	准教授	山本 裕 <令和2年4月> 博士(工学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ ソリューション開発Ⅰ ソリューション開発Ⅱ IoTシステム開発Ⅰ データ解析
実(研)	教授	小柳 栄次 <令和2年4月> 博士(工学)	臨地実務実習Ⅱ ソリューション開発Ⅰ
実(研)	教授	広田 和洋 <令和2年4月> 工学博士	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 組み込みシステム制御実習 回路・プリント基板設計

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師		須賀 佳容子 <令和2年4月> Bachelor of Arts i Psychology (アメリカ)	英語コミュニケーション1a 英語コミュニケーション1b 英語コミュニケーション2a 英語コミュニケーション2b
兼任 講師		境 真良 <令和4年4月> 法学士	知的財産権論
兼任 講師		片方 恵子 <令和4年4月> 博士(システム・マネジメント学)	社会と倫理
兼任 講師		本西 勝則 <令和4年4月> M.S. in Industrial Administration (アメリカ)	企業経営論 ベンチャー起業経営
兼任 講師		蔵原 大 <令和2年4月> 人間科学修士 ※	比較文化論

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師		藤田 至一 <令和2年4月> 博士(映像メディア学)	臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
兼任 講師		小野 憲史 <令和2年4月> 学士(社会学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅲ
兼任 講師		須賀 佳容子 <令和2年4月> Bachelor of Arts i Psychology (アメリカ)	英語コミュニケーション1a 英語コミュニケーション1b 英語コミュニケーション2a 英語コミュニケーション2b
兼任 講師		境 真良 <令和4年4月> 法学士	知的財産権論
兼任 講師		片方 恵子 <令和4年4月> 博士(システム・マネジメント学)	社会と倫理
兼任 講師		本西 勝則 <令和4年4月> M.S. in Industrial Administration (アメリカ)	企業経営論 ベンチャー起業経営

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師		浅野(若林) 新一郎 <令和3年4月> 文学士	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅲ
兼任 講師		藤田 至一 <令和2年4月> 博士(映像メディア学)	臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
兼任 講師		小野 憲史 <令和2年4月> 学士(社会学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅲ
兼任 講師		須賀 佳容子 <令和2年4月> Bachelor of Arts i Psychology (アメリカ)	英語コミュニケーション2a 英語コミュニケーション2b
兼任 講師		赤染 陽子 <令和4年4月> 博士(理学)	知的財産権論
兼任 講師		片方 恵子 <令和4年4月> 博士(システム・マネジメント学)	社会と倫理
兼任 講師		本西 勝則 <令和4年4月> M.S. in Industrial Administration (アメリカ)	企業経営論 ベンチャー起業経営

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師		浅野(若林) 新一郎 <令和3年4月> 文学士	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅲ
兼任 講師		藤田 至一 <令和2年4月> 博士(映像メディア学)	臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
兼任 講師		小野 憲史 <令和2年4月> 学士(社会学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅲ
兼任 講師		須賀 佳容子 <令和2年4月> Bachelor of Arts i Psychology (アメリカ)	英語コミュニケーション1a 英語コミュニケーション1b 英語コミュニケーション2a 英語コミュニケーション2b 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅢc
兼任 講師		赤染 陽子 <令和4年4月> 博士(理学)	知的財産権論
兼任 講師		片方 恵子 <令和4年4月> 博士(システム・マネジメント学)	社会と倫理
兼任 講師		本西 勝則 <令和4年4月> M.S. in Industrial Administration (アメリカ)	ベンチャー起業経営
兼任 講師		土屋 継 <令和4年4月> 修士(経営管理)	企業経営論
兼任 講師		中村 俊紀 <令和4年4月> 修士(経済)	企業経営論
兼任 講師		高松 孝光 <令和5年4月> 経営学修士	ベンチャー起業経営

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師		浅野(若林) 新一郎 <令和3年4月> 文学士	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 地域共創デザイン実習
兼任 講師		藤田 至一 <令和2年4月> 博士(映像メディア学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
兼任 講師		小野 憲史 <令和2年4月> 学士(社会学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 地域共創デザイン実習
兼任 助教		野村 亮介 <令和5年4月> 博士(数理学)	臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 線形代数 解析学
兼任 講師		須賀 佳容子 <令和2年4月> Bachelor of Arts i Psychology (アメリカ)	英語コミュニケーション1a 英語コミュニケーション1b 英語コミュニケーション2a 英語コミュニケーション2b 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅢc 英語コミュニケーションⅢd
兼任 講師		赤染 陽子 <令和4年4月> 博士(理学)	知的財産権論
兼任 講師		片方 恵子 <令和4年4月> 博士(システム・マネジメント学)	社会と倫理
兼任 講師		本西 勝則 <令和4年4月> M.S. in Industrial Administration (アメリカ)	企業経営論
兼任 講師		土屋 継 <令和4年4月> 修士(経営管理)	企業経営論
兼任 講師		中村 俊紀 <令和4年4月> 修士(経済)	企業経営論 比較文化論 感性をはかる
兼任 講師		高松 孝光 <令和5年4月> 経営学修士	ベンチャー起業経営

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	川崎 敏治 <令和2年4月> 理学修士	C言語基礎 情報数学 線形代数
兼任	講師	相磯 義宏 <令和2年4月> 学士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	八木 伸行 <令和2年10月> 博士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	吉野 純一 <令和2年10月> 博士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	長岐 滋 <令和3年4月> 工学博士	材料力学・材料工学
兼任	講師	石田 尚人 <令和2年4月> 芸術工学士	企画・発想法 チームワークとリーダーシップ
兼任	講師	十返 文子 <令和2年4月> 情報システム学修士(専門職)	プロジェクトマネジメント
兼任	講師	大守 隆 <令和5年4月> D.Phil in Economics (イギリス)	持続可能な社会
兼任	講師	藤木 文彦 <令和2年4月> 工学修士	解析学
兼任	講師	村上 諭 <令和2年4月> 専門学校 卒	コミュニケーションツール
兼任	講師	嘉村 友作 <令和2年4月> 修士(理学)	確率統計論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	川崎 敏治 <令和2年4月> 理学修士	C言語基礎 情報数学 線形代数
兼任	講師	八木 伸行 <令和2年10月> 博士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	吉野 純一 <令和2年10月> 博士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	長岐 滋 <令和3年4月> 工学博士	材料力学・材料工学
兼任	講師	石田 尚人 <令和2年4月> 芸術工学士	企画・発想法 チームワークとリーダーシップ
兼任	講師	十返 文子 <令和2年4月> 情報システム学修士(専門職)	プロジェクトマネジメント
兼任	講師	大守 隆 <令和5年4月> D.Phil in Economics (イギリス)	持続可能な社会
兼任	講師	藤木 文彦 <令和2年4月> 工学修士	解析学
兼任	講師	名和田 竜 <令和2年4月> 専門学校 卒	コミュニケーションツール
兼任	講師	嘉村 友作 <令和2年4月> 修士(理学)	確率統計論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大野 はな恵 <令和3年4月> 学術(博士)	比較文化論
兼任	講師	川崎 敏治 <令和2年4月> 理学修士	C言語基礎 情報数学 線形代数
兼任	講師	八木 伸行 <令和2年10月> 博士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	吉野 純一 <令和2年10月> 博士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	長岐 滋 <令和3年4月> 工学博士	材料力学・材料工学
兼任	講師	石田 尚人 <令和2年4月> 芸術工学士	企画・発想法 チームワークとリーダーシップ
兼任	講師	大守 隆 <令和3年4月> D.Phil in Economics (イギリス)	持続可能な社会 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb
兼任	講師	藤木 文彦 <令和2年4月> 工学修士	解析学
兼任	講師	名和田 竜 <令和2年4月> 専門学校 卒	コミュニケーションツール
兼任	講師	嘉村 友作 <令和2年4月> 修士(理学)	確率統計論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大野 はな恵 <令和3年4月> 学術(博士)	比較文化論
兼任	講師	川崎 敏治 <令和2年4月> 理学修士	C言語基礎 情報数学 線形代数
兼任	講師	八木 伸行 <令和2年10月> 博士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	吉野 純一 <令和2年10月> 博士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	長岐 滋 <令和3年4月> 工学博士	材料力学・材料工学
兼任	講師	石田 尚人 <令和2年4月> 芸術工学士	企画・発想法 チームワークとリーダーシップ
兼任	講師	大守 隆 <令和3年4月> D.Phil in Economics (イギリス)	持続可能な社会 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb
兼任	講師	藤木 文彦 <令和2年4月> 工学修士	解析学
兼任	講師	名和田 竜 <令和2年4月> 専門学校 卒	コミュニケーションツール
兼任	講師	嘉村 友作 <令和2年4月> 修士(理学)	確率統計論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大野 はな恵 <令和3年4月> 学術(博士)	比較文化論
兼任	講師	八木 伸行 <令和2年10月> 博士(工学)	エレクトロニクス工学
兼任	講師	長岐 滋 <令和3年4月> 工学博士	材料力学・材料工学
兼任	講師	石田 尚人 <令和2年4月> 芸術工学士	企画・発想法 チームワークとリーダーシップ
兼任	講師	大守 隆 <令和3年4月> D.Phil in Economics (イギリス)	持続可能な社会
兼任	講師	名和田 竜 <令和2年4月> 専門学校 卒	コミュニケーションツール
兼任	講師	嘉村 友作 <令和2年4月> 修士(理学)	確率統計論

【認可時又は届出時】		【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】		【令和5年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名								
兼任	講師	福島 千恵子 <令和2年4月> 教養学士	福島 千恵子 <令和3年4月> 教養学士	福島 千恵子 <令和3年4月> 教養学士	福島 千恵子 <令和3年4月> 教養学士	福島 千恵子 <令和3年4月> 教養学士	福島 千恵子 <令和3年4月> 教養学士	福島 千恵子 <令和3年4月> 教養学士	福島 千恵子 <令和3年4月> 教養学士
		英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb	英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb
兼任	講師	吉野 瑞男 <令和2年4月> 修士(文学)	吉野 瑞男 <令和2年4月> 修士(文学)	吉野 瑞男 <令和4年4月> 修士(文学)	吉野 瑞男 <令和4年4月> 修士(文学)	吉野 瑞男 <令和4年4月> 修士(文学)	吉野 瑞男 <令和4年4月> 修士(文学)	吉野 瑞男 <令和4年4月> 修士(文学)	吉野 瑞男 <令和4年4月> 修士(文学)
		英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ
				兼任 講師	Jason Kushnir <令和3年4月> Mao in TESOL (イギリス)	兼任 講師	Jason Kushnir <令和3年4月> Mao in TESOL (イギリス)	兼任 講師	Jason Kushnir <令和3年4月> Mao in TESOL (イギリス)
					英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb		英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb		英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ
						兼任 講師	津森(山家) 紀乃 <令和4年4月> 学士(文学)	兼任 講師	津森(山家) 紀乃 <令和4年4月> 学士(文学)
						英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	神保 充美 <令和4年4月> 工学修士	神保 充美 <令和4年4月> 工学修士	神保 充美 <令和4年4月> 工学修士	神保 充美 <令和4年4月> 工学修士	神保 充美 <令和4年4月> 工学修士	神保 充美 <令和4年4月> 工学修士	神保 充美 <令和4年4月> 工学修士	神保 充美 <令和4年4月> 工学修士
		英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅣ	英語コミュニケーションⅣ	技術英語	技術英語
兼任	講師	衰 哲求 <令和4年4月> 修士(言語学)							
		英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ							
			兼任 講師		Maynard Benjamin Robert <令和2年4月> Master of Applied Linguistics & TESOL (オーストラリア)				
					英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅣ				
				兼任 講師	Fergal MoTaggart <令和3年4月> M.A in English Literature (イギリス)	兼任 講師	Fergal MoTaggart <令和3年4月> M.A in English Literature (イギリス)		
					英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅣ		英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅣ		
								兼任 講師	Daniel Bradley <令和5年4月> BBA (アメリカ)
									英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb
								兼任 講師	竹原 文代 <令和5年4月> 学士(心理学) (アメリカ)
									英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員名で(兼任・兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 ・ その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている欄は赤字としてください。
 ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学院等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任・兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・講師(水上憲明) 4科目(制御工学基礎、臨地実務実習Ⅰ、地域共創デザイン実習、ソリューション開発Ⅱ) 就任。令和元年12月教員審査済。
- ・兼任教員(蔵原大) 逝去したため就任不可能(鈴木雅美、令和2年6月教員審査済)。
- ・兼任教員(村上諭) 一身上の都合のため就任辞退(名和田竜)。
- ・兼任教員(斐哲求) 一身上の都合のため就任辞退(メイナールド・ベンジャミン・ロバート)。
- ・兼任教員(福島千恵子) 一身上の都合のため科目担当を1年延期(メイナールド・ベンジャミン・ロバート)。
- ・兼任教員(吉野瑞男) 一身上の都合のため科目担当を1年延期(門田裕次)。
- ・兼任教員(相磯義宏) 一身上の都合のため就任辞退(八木伸行、吉野純一)。
- ・教授(菊間一宏) 博士(工学)に学位名称変更。
- ・兼任教員(中谷日出) 科目指導強化のため1科目(企画発想法) 追加
- ・兼任教員(渡部健司) 科目指導強化のため1科目(臨地実務実習Ⅰ) 就任
- ・兼任教員(二村忍) 科目指導強化のため1科目(臨地実務実習Ⅱ) 就任
- ・兼任教員(山根信二) 科目指導強化のため1科目(臨地実務実習Ⅱ) 就任
- ・兼任教員(藤田至一) 科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ) 就任
- ・兼任教員(小野憲史) 科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅲ) 就任

【令和3年度】

- ・教授(遠山茂樹) 科目指導強化のため1科目(情報工学概論) を追加。令和3年2月AC教員審査済。
- ・教授(菊間一宏) 一身上の都合により辞任、後任として講師(兒玉賢史) 就任。令和3年11月AC教員審査済。
- ・助教(齋藤亜希) 改め、助教(齋藤(塩尻) 亜希)。
- ・兼任教員(須賀佳容子) 負担軽減のため2科目(英語コミュニケーションⅠa、英語コミュニケーションⅠb) を削除。
- ・兼任教員(眞真良) 一身上の都合のため辞任(赤染陽子)。
- ・兼任教員(大野はな恵) 1科目(比較文化論) 就任。
- ・兼任教員(十返文子) 一身上の都合のため辞任(山戸昭三)。
- ・兼任教員(福島千恵子) 一身上の都合のため2科目(英語コミュニケーションⅡa、英語コミュニケーションⅡb) 担当を1年延期し、兼任教員(大守隆) 2年前倒しにて就任。
- ・兼任教員(吉野瑞男) 一身上の都合のため科目担当を1年延期(ジェイソン・クシュニア)。
- ・兼任教員(メイナールド・ベンジャミン・ロバート) 一身上の都合のため辞任(ファーガル・マクタガット)。
- ・兼任教員(根岸豊) 科目指導強化のため1科目(臨地実務実習Ⅱ) 就任
- ・兼任教員(浅野(若林) 耕一郎) 科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅲ) 就任

【令和4年度】

- ・教授(小柳栄次) 担当教員変更のため1科目(自動制御機械開発実習) 削除(教授(遠山茂樹) 講師(波多江茂樹、水上憲明))。令和4年2月AC教員審査済。
- ・講師(兒玉賢史) 3科目(サーバ・ネットワーク、IoTサービスデザイン、臨地実務実習Ⅲ) 追加。令和3年11月AC教員審査済。
- ・兼任教員(須賀佳容子) 科目指導強化のため4科目(英語コミュニケーションⅠa、英語コミュニケーションⅠb、英語コミュニケーションⅢa、英語コミュニケーションⅢb) 追加。
- ・兼任教員(福島千恵子) 科目指導強化のため2科目(英語コミュニケーションⅡa、英語コミュニケーションⅡb) 追加。
- ・兼任教員(吉野瑞男) 科目指導強化のため4科目(英語コミュニケーションⅠa、英語コミュニケーションⅠb、英語コミュニケーションⅡa、英語コミュニケーションⅡb) 追加。
- ・兼任教員(Jason Kushnir) 一身上の都合のため2科目(英語コミュニケーションⅡa、英語コミュニケーションⅡb) 削除、2科目(英語コミュニケーションⅢa、英語コミュニケーションⅢb) 追加。
- ・兼任教員(津森(山家) 紀乃) 4科目(英語コミュニケーションⅠa、英語コミュニケーションⅠb、英語コミュニケーションⅡa、英語コミュニケーションⅡb) 就任。
- ・兼任教員(神保充美) 一身上の都合のため2科目(英語コミュニケーションⅢa、英語コミュニケーションⅢb) 削除。
- ・兼任教員(本西勝則) 一身上の都合のため1科目(企業経営論) 削除(兼任教員土屋継)。

【令和5年度】

- ・講師(石山謙)2科目(線形代数、解析学)就任。令和5年2月教員審査済。
- ・講師(町出智也)4科目(C言語基礎、線形代数、解析学、自然言語処理)就任。令和5年2月教員審査済。
- ・助教(飛澤和則)3科目(C言語基礎、情報数学、機械学習)就任。令和5年5月教員審査済。
- ・教授(富山哲男)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、地域共創デザイン実習)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(大関和夫)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(遠山茂樹)科目指導強化のため5科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ、地域共創デザイン実習)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(駒井章治)科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(鈴木雅実)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(上條浩一)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(藤井竜也)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(三宅茂樹)科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(辻野雅之)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(武本充治)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(山本裕)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・教授(広田和洋)科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・准教授(西田麻美)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・講師(水上憲明)科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・講師(兒玉賢史)科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・講師(荒金匡徳)科目指導強化のため1科目(臨地実務実習Ⅰ)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・助教(斎藤(塩尻)亜希)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、地域共創デザイン実習)を追加。令和5年5月AC教員審査済。
- ・兼任教員(渡部健司)科目指導強化のため4科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ、地域共創デザイン実習)を追加。
- ・兼任教員(近藤研策)科目指導強化のため2科目(コミュニケーションと記号論、企画・発想法)を追加。
- ・兼任教員(近藤研策)科目指導強化のため4科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ、地域共創デザイン実習)を追加。
- ・兼任教員(齋藤直宏)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。
- ・兼任教員(二村忍)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。
- ・兼任教員(根岸豊)科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ)を追加。
- ・兼任教員(中谷日出)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)を追加。
- ・兼任教員(高橋憲一)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)就任。
- ・兼任教員(水上恵太)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)就任。
- ・兼任教員(山本浩二)科目指導強化のため3科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ)就任。
- ・兼任教員(山根信二)科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ)を追加。
- ・兼任教員(浅野(若林)耕一郎)科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、地域共創デザイン実習)を追加。
- ・兼任教員(藤田至一)科目指導強化のため1科目(臨地実務実習Ⅰ)を追加。
- ・兼任教員(小野憲史)科目指導強化のため2科目(臨地実務実習Ⅰ、地域共創デザイン実習)を追加。
- ・兼任教員(野村亮介)2科目(線形代数、解析学)就任。
- ・兼任教員(須賀佳香子)科目指導強化のため1科目(英語コミュニケーションⅣ)追加。
- ・兼任教員(本西勝則)一身上の都合のため辞任。
- ・兼任教員(高松孝光)1科目(ベンチャー起業経営論)就任。
- ・兼任教員(中村俊紀)2科目(比較文化論、感性をはかる)就任。
- ・兼任教員(川崎敏治)一身上の都合のため辞任。
- ・兼任教員(吉野純一)一身上の都合のため辞任。
- ・兼任教員(藤本文彦)一身上の都合のため辞任。
- ・兼任教員(嘉村友作)一身上の都合のため辞任。
- ・兼任教員(Jason Kushnir)1科目(英語コミュニケーションⅣ)追加
- ・兼任教員(津森(山家)紀乃)3科目(英語コミュニケーションⅢa、英語コミュニケーションⅢb、英語コミュニケーションⅣ)追加
- ・兼任教員(Fergal McTaggart)一身上の都合のため辞任。
- ・兼任教員(Daniel Bradley)4科目(英語コミュニケーションⅠa、英語コミュニケーションⅠb、英語コミュニケーションⅡa、英語コミュニケーションⅡb)就任
- ・兼任教員(竹原 文代)3科目(英語コミュニケーションⅢa、英語コミュニケーションⅢb、英語コミュニケーションⅣ)就任
- ・教授(遠山茂樹)科目指導強化のため5科目(ソリューション開発Ⅰ、ソリューション開発Ⅱ)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・教授(鈴木雅実)科目指導強化のため1科目(ソリューション開発Ⅱ)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・教授(上條浩一)科目指導強化のため2科目(ソリューション開発Ⅰ、ソリューション開発Ⅱ)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・教授(三宅茂樹)科目指導強化のため2科目(ソリューション開発Ⅰ、ソリューション開発Ⅱ)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・教授(廣川知宏)科目指導強化のため1科目(ソリューション開発Ⅰ)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・教授(武本充治)科目指導強化のため2科目(ソリューション開発Ⅰ、ソリューション開発Ⅱ)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・講師(水上憲明)科目指導強化のため1科目(ソリューション開発Ⅰ、産業用ロボット実習、機械設計)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・講師(兒玉賢史)科目指導強化のため5科目(ソリューション開発Ⅰ、ソリューション開発Ⅱ、線形代数、解析学、確率統計論)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・講師(荒金匡徳)科目指導強化のため2科目(ソリューション開発Ⅰ、ソリューション開発Ⅱ)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・講師(波多江茂樹)科目指導強化のため2科目(力学、機械設計)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・講師(町出智也)科目指導強化のため5科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ、ソリューション開発Ⅰ、ソリューション開発Ⅱ)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・講師(石山謙)科目指導強化のため4科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ、地域共創デザイン実習)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。
- ・助教(飛澤和則)科目指導強化のため5科目(臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ、ソリューション開発Ⅰ、ソリューション開発Ⅱ)を追加。令和5年2回AC教員審査提出。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
10	5	4	2
名	名	名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一(2)及び第四十二条の六、専門職大学設置基準別表第一及び第三十六条、専門職短期大学設置基準別表第一及び第三十三条により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
14	2	3	1	20	1	12	2	7	2	23	1
(14)	(2)	(4)	(1)	(21)	(1)						
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数		
8	3	9	2			13	2	8	1		
(9)	(3)	(9)	(2)								
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
12	2	7	2	23	1	12	2	7	2	23	1
[Δ2]	[0]	[4]	[1]	[3]	[0]	[Δ2]	[0]	[4]	[1]	[1]	[0]
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数		
13	2	8	1			13	2	8	1		
[5]	[Δ1]	[Δ1]	[Δ1]			[5]	[Δ1]	[Δ1]	[Δ1]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日現在の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。
 ・ 「みなし専任教員数」には、「実専」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	6	6
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{23}{20} = \boxed{115} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{6}{23} = \boxed{26.08} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
							該当なし			
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	菊間 一宏	R3.2	選択	サーバ・ネットワーク	①	R3.2 一身上の都合のため就任辞退（3）			
				選択	IoTサービスデザイン	①				
				必修	臨地実務実習Ⅲ	①				
2	教授	小柳 栄次	R4.3	必修	卒業研究制作	①	R4.3 一身上の都合のため就任辞退（4）			
				選択	自動制御機械開発実習	①				
				必修	臨地実務実習Ⅱ	①				
				必修	ソリューション開発Ⅰ	①				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
2	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	7	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
2	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	7	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{20} = \boxed{10} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で**赤字**で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
						該当なし				
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和4年度における1名の教員辞任については、本学で定める定年を5年以上延長しており、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用と、教員本人の教員の諸事情も踏まえた交代となった。なお、担当していた科目については、既に他教授が担当している(必修科目)、もしくは追加教員審査による後任補充が確定している(選択科目)のため、学生の履修に影響はない。

なお、交代の専任教員確保については、申請書に記載したとおり「公募により広く適任者を求め、科目に適した教員を公正な審査にて採用する」に準じ、本学の採用ホームページだけではなく民間事業者も利用した公募を行い、前回の報告後、後任となる専任教員を確保した。なお、学生へはWebやオリエンテーションを通して事前に告知しており、開講前に教員が補充できたため学生への影響は特になし。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の実施計画
<p>認 可 時 (令和2年)</p>	<p>各コースの教育課程に選択必修の科目が設定されたが、3年次に各コースのコア科目(必修科目)が配置されていることから、学生が計画的・効果的にコースコア科目を履修できるよう、1、2年次において適切に履修指導すること。他方で、学生の科目の選択の余地が少なくなっていることから、学生が主体的に履修科目を選択することができるよう、例えば、他の学科やコースの基礎的な科目を履修できるようにすることなどを通じて、学生の多様な学びを確保するよう努めること。また、その考え方については、カリキュラム・ポリシーにおいて明示し、学生に対し明らかにすること。</p>	<p>・3年次の各コースコア科目が滞りなく履修できるように、開学初のオリエンテーション(遠隔)にて教育課程の概要について解説を行った。 特に、当該科目(3年次のコースコア科目)は実習科目であるため、実習科目についてフォーカスした解説も合わせて行った。(2)(3)(4)(5)※令和5年度は対面にて実施。 ・選択科目は配属されるコースに起因するが、配属の決定は2年次であるため、1年次の選択科目については現時点で希望するコースによらず、基本的に修得するようにアナウンスをした。(2)(3)(4)(5) ・カリキュラム・ポリシーについて、以下の文章を追加した。加えて、修正済みカリキュラム・ポリシーを大学HP等に反映し学生のみならず、入学検討者なども含め情報を明らかにした。</p> <p>工科学部カリキュラム・ポリシー ***【加筆部分抜粋】*** ・職業専門科目においては、専門分化された課程での学びに取り組むために、2年次進級時に必ず1つのコースに所属する。 ① 学生は基本的に所属するコースに呼応した選択科目を修得することを推奨する。 ② 選択科目の内、コースコア科目(選択・必修科目)を配する。所属するコースコア科目を修得しないと卒業できない。 ③ 学生の多様な学びを確保するために他学科や他コースの選択科目の修得も可能である。ただし、②に該当する学生の履修登録が優先となる。また、他学科の授業は自由科目(卒業要件に係らない科目)となる。 ④ 1年次に配されている選択科目については、各コースの基礎的な科目のため、コース定員によらずその学科に所属する全ての学生が受講できる。 ***</p> <p>また、カリキュラム・ポリシーの修正については、現在認可申請中である大阪・名古屋国際工科大学の審査意見にも配慮し、以下についても合わせて加筆した。 ***【加筆部分抜粋<情報工学科>】*** ・入学時の学修動機を深化させ、かつ、学修の最終形と職業専門科目との関連を理解するために、本学では『学科包括科目』と呼ぶ科目を1年前期に設ける。 共通：「情報工学概論」「デザインエンジニアリング概論」 *** ***【加筆部分抜粋<デジタルエンタテインメント学科>】*** ・入学時の学修動機を深化させ、かつ、学修の最終形と職業専門科目との関連を理解するために、本学では『学科包括科目』と呼ぶ科目を1年前期に設ける。 共通：「コンテンツデザイン概論」 ***</p> <p>修正済みのカリキュラムポリシーの全文は別添する(②-1工科学部カリキュラムポリシー、②-2情報工学科カリキュラムポリシー、②-3デジタルエンタテインメント学科カリキュラムポリシー)。(2)(3)(4)(5)</p>	<p>履行済</p>

【認可】
遵守事項

<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p>	<p>1. 円滑に開学を迎えることを目的として、開学前から教員就任予定者に対して、大学開学に向けた準備状況について情報共有する場として教員全体集会を複数回開催した。 【実施内容】 第一回(11/28) : 学長及び専任教員全員参加による顔合わせ、各自の自己紹介、FD活動の案内等 第二回(1/23) : 開学までの準備事項についての説明(担任制、講義、LMS等)、FD活動の案内等 第三回(3/25) : 開学直前の連絡(新型コロナウイルスによる授業開始の後ろ倒し等) ※3月の活動については、昨今の情勢からオンライン開催を適宜導入した。(2)</p> <p>2. 開学前より、職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的を達成するために、本学に設置したコースに呼応するワーキンググループの活動を実施した。 【実施内容】 ・AIコース会(2/13, 3/23) ・IoTコース会(2/7, 2/14, 2/19, 3/6, 3/18) ・ロボットコース会(2/27, 3/9, 3/25) ・ゲームコース会(2/14, 2/25) ・CGコース会(2/6) なお、CGコース会が一回にとどまっているのは、昨今のコロナウイルスの影響に伴い、遠隔でのオリエンテーションや入学式の動画撮影・配信の業務対応を優先していただいたためである。 ※3月の活動については、昨今の情勢からオンライン開催を適宜導入した。(2)</p> <p>3. 開学時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことを目的として、各種委員会を設置し、諸規定を整備し施行した。各種委員会一覧は別添する(③東京国際工科専門職大学 大学設置に伴い整備した規定素案一覧)(2)(3)(4)(5)</p> <p>4. 開学2年目の令和3年度は、さらなる充実した教育研究活動の一環として、授業時間外で任意の専任教員による多数のゼミナールを開講した。対象学生は、ゼミでの学修を希望する2年次以上とし、結果、本学の70名を超える学生が参加してくれている。学生は所属する学科やコースにとらわれることなく、興味を越え分野を、そして専任教員は得意とする学問・実践分野を教授することができる。(3)(4)(5)</p> <p>5. 教育研究の水準向上成果として、文部科学省が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」日本学の「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム」が認定された。なお、対象科目は1年次に配されている「コンテンツデザイン概論」「電子情報工学概論」、および2年次に配されている「統計論」である(5)</p> <p>6. 教育研究のさらなる充実のため、令和5年度から新たに「アカデミックライティング」という補講科目を用意した。この科目は留学生や日本語を母国語としない学生のみならず、長い文章を書くことが苦手な学生なども受講可能としている。当該科目は5月9日に開講予定である。(5)</p>	<p>履行済</p>	
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>同じ授業回数で異なる単位数(1.5単位や2.0単位など)が設定されている科目があることから、科目ごとの予習・復習内容も含めて、どのような考え方で単位数が設定されているのかシラバスにより明らかにすること。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p>	<p>本学で導入したLMS(Learning Management System)上に、単位数の考え方について、各科目の予習・復習の内容と考え方も含め、授業形態ごとに分けて詳細を説明した資料を常時掲示するほか、学生要覧への記載、入学時のオリエンテーションで詳細を説明等を行い、学生に徹底周知をしている。実際にLMS上に通知している資料を別添する(④単位設定の考え方)。(2)(3)(4)(5)</p>	<p>履行済</p>	

<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>留学生について、入学後の学力の差異を補完するために「基礎数学」、「基礎英語」、「基礎物理」、「基礎日本語」も卒業要件に関係しない補講として行うと説明があるため、いつ、どのように開講されるのか、学生に対して事前に説明を行うこと。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p>	<p>入学予定者への手紙による通知、および初回オリエンテーション（遠隔）にて、留学生のみならず、全学生に対して学力の差異を補完するために、補講科目について説明を行った。以下、詳細を説明する。</p> <p>【当初の予定】 合格通知とともに手紙を同封することで補講科目について、基本的に参加必須（学力の補填が必要）か否かを判定するために、4/6,7に日本語科目を除く、数・英・物のプレースメントテストを実施すると通達した。実際に通達した手紙を別添する（⑤入学後の学習サポートについて）。</p> <p>【新型コロナウイルスによる変更1（3月）】 新型コロナウイルスの影響から、4/6,7のプレースメントテスト実施を4/17,18に延期することを通達した。</p> <p>【新型コロナウイルスによる変更2（4月）】 4/2遠隔に変更の上で初回オリエンテーションを実施し、そこで、プレースメントテストの実施時期の説明（5/8-16に再延期）、補講科目の対象者（テストの点数が取れなかったもの、点が取れたが参加したいもの）と、実施予定日（通常授業と同時開催で月・火・金の6限目）を開講すると説明を行った。</p> <p>【新型コロナウイルスによる変更3（留学生への対応）】 「基礎日本語」については、新型コロナウイルスの影響による入国不可能でまだ日本に入国できていない留学生がいることや、対象者が8名（永住ビザを保持しているものも含む）と少人数であること、日本語検定N1を保持している学生もいる等の事柄を考慮し、希望する留学生のみの受講とし、対面での通常授業が再開してから個別に対応することで検討した。 (2)</p> <p>なお、令和3,4年度は予定通り、入学予定者への手紙による通知、および入学オリエンテーションでの説明を行えている。（3）（4）</p> <p>令和5年度は上記に加え、教育研究の充実のために新たに「アカデミックライティング」という補講科目も追加した。5/9から開講予定であるため、これもオリエンテーション期間にて事前にアナウンスを行った。（5）</p>	<p>なお、5月19日に本事項について履行済みとなったため、以下に追加で説明する。 (2)</p> <p>5月4日の政府発表による緊急事態宣言の延期に伴い、5月6日に対面授業開始を5月19日から6月15日に延期したことを通達した。あわせて、プレースメントテストを5/16に延期し、対面ではなくLMSシステムを利用した遠隔で実施することを通達した。（2）</p> <p>5月16日に実施したプレースメントテストの結果をもって、5月19日から「基礎数学」、「基礎英語」、「基礎物理」の補講を開始した。 なお「基礎日本語」については引き続き日本に入国できていない留学生がいるため、時差なども考慮し、別日程として7月20-26日をテスト期間とし、補講の開始は後期の授業開始（10月5日）からとし、該当学生に通達した。 (2)</p> <p>履行済</p>
-----------------------	--	----------------------	---	---

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工科学部 情報工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①学則の変更について 学則については、認可申請書に提出したとおりである。</p> <p>② 新型コロナウイルスの影響について</p> <p>記載なし。</p>	<p>1. 変更の事由 以下に掲げる事由等により、東京国際工科専門職大学学則の一部を変更した。 現在、本学の「学則別表」となっている下記3表について、学生が情報を参照しやすくすることを目的とし、「学則別表」ではなく、「別に定める」こととする。これに伴い、学則別表の削除及び一部条文の変更を行う。 別表1 授業科目及び単位数 別表2 卒業・修了要件 別表3 授業料等</p> <p>2. 変更の時期 令和3年4月1日</p> <p>なお、本件については令和3年3月に文部科学省に既に届出済みであり、内容の修正はない。(3)</p> <p>1. CO2濃度・湿度等の計測実施について 新型コロナウイルス蔓延防止策として、入学者選抜試験や入学式等の人が密になりやすい行事には検温やアルコール消毒の徹底はもとより、本学ではCO2濃度計測も実施している。 実施当初は、ポータブルのCO2濃度測定器を人の手によって移動させることで計測を行っていたが、本学専任教員の手によって計測システムのプロトタイプを作成し、遠隔でモニタリングできること、急激なCO2濃度の上昇などがリアルタイムで把握できて即座に換気を強化するなどの対応ができることを技術的に確認した。 入学者選抜終了後も、入学式の会場も含め計測を継続している。このことは、本学では学生・教職員とも未だに感染者を発生させることなく学校を運営できていることに貢献していると考えている。(2) (3) (4) (5)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

開学と同時に、東京国際工科専門職大学のFD (ファカルティ・ディベロップメント) 委員会規定を施行し、FD委員会を設置した。同様に、開学と同時に、東京国際工科専門職大学 SD (スタッフ・ディベロップメント) 委員会規定を施行し、SD委員会を設置した。(2)

b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)

計画通り年1回以上の開催を実施し、活動も計画通り実施できている。

開催状況

【FD委員会】

第1回FD委員会 (2020/09/17) 専任教員3名、職員1名：第1回全体FD研修会について
第2回FD委員会 (2020/11/25) 専任教員3名、職員1名：第2回全体FD研修会について
第3回FD委員会 (2020/11/30) 専任教員3名、職員1名：第3回全体FD研修会について
第4回FD委員会 (2021/02/19) 専任教員3名、職員1名：第4回全体FD研修会について
第5回FD委員会 (2021/05/10) 専任教員2名、職員1名：第5回全体FD研修会について
第6回FD委員会 (2021/06/29) 専任教員2名、職員1名：第6回全体FD研修会について
第7回FD委員会 (2021/08/31) 専任教員2名、職員1名：第7回全体FD研修会について
第8回FD委員会 (2021/10/11) 専任教員2名、職員1名：第8回全体FD研修会について
第9回FD委員会 (2021/12/01) 専任教員2名、職員1名：第9回全体FD研修会について
第10回FD委員会 (2022/01/27) 専任教員2名、職員1名：第10回全体FD研修会について
第11回FD委員会 (2022/03/09) 専任教員2名、職員1名：次年度のFD活動について
第12回FD委員会 (2022/05/09) 専任教員2名、職員1名：第11回全体FD研修会について
第13回FD委員会 (2022/06/28) 専任教員2名、職員1名：第12回全体FD研修会について
第14回FD委員会 (2022/08/29) 専任教員2名、職員1名：第13回全体FD研修会について
第15回FD委員会 (2022/10/11) 専任教員2名、職員1名：第14回全体FD研修会について
第16回FD委員会 (2022/12/07) 専任教員2名、職員1名：第15回全体FD研修会について
第17回FD委員会 (2023/01/26) 専任教員2名、職員1名：第16回全体FD研修会について

【SD委員会】

第1回SD委員会 (2020/05/12) 職員3名：SD委員会の趣旨確認、今年度のSD活動の計画について
第2回SD委員会 (2021/03/22) 職員3名：10月のSD活動の報告、来年度のSD活動について
第3回SD委員会 (2021/04/14) 職員3名：今年度のSD活動の計画について
第4回SD委員会 (2021/12/23) 職員3名：学生アンケートの結果分析、学生支援の研修実施計画について
第5回SD委員会 (2022/05/16) 職員3名：今年度のSD活動の計画について
第6回SD委員会 (2023/03/22) 職員3名：SD活動の報告、来年度のSD活動について

c 委員会の審議事項等

委員会で審議する事項

(FD委員会)

- ・ 学部に所属する教員の教育指導方法の改善及びFD活動に関する事項
- ・ 学部で実施する教育改善及びFD活動に関する事項
- ・ その他、学部長または教授会により審議を付託された事項

(SD委員会)

- ・ SD活動の推進計画に関すること
- ・ SD活動の実施に関すること
- ・ その他SD活動推進に必要な事項
- ・ その他、学部長または教授会により審議を付託された事項

② 実施状況

a 実施内容

(FD活動内容)

<全体FD>

- 第1回全体FD活動 (2020/09/24) : 前期振り返り & 科研費申請書の書き方
- 第2回全体FD活動 (2020/11/26) : 実習について
- 第3回全体FD活動 (2020/12/24) : 授業間の横連携、学生評価、学生とのコミュニケーション
- 第4回全体FD活動 (2021/02/25) : 研究推進、倫理
- 第5回全体FD活動 (2021/06/03) : メンタルヘルス
- 第6回全体FD活動 (2021/07/15) : 授業構成
- 第7回全体FD活動 (2021/09/22) : 教材作成
- 第8回全体FD活動 (2021/11/25) : 学生との向き合い方
- 第9回全体FD活動 (2022/01/19) : 就職活動に向けて
- 第10回全体FD活動 (2022/03/17) : 入学生受け入れ準備
- 第11回全体FD活動 (2022/05/26) : 専門職大学での研究について
- 第12回全体FD活動 (2022/07/21) : 学生の日本語教育について ※外部講師召喚
- 第13回全体FD活動 (2022/09/29) : 授業を愉しくやる工夫
- 第14回全体FD活動 (2022/11/17) : 研究倫理・コンプライアンス&授業参観フィードバック
- 第15回全体FD活動 (2022/01/19) : 卒業研究&卒業制作
- 第16回全体FD活動 (2023/03/22) : コンプライアンス&学生アンケートフィードバック

(SD活動内容)

- 第1回SD活動 (2020/10/28) : 専任教員による本学の養成する人材像と教育課程への理解促進
- 第2回SD活動 (2022/01/13) : 学生支援(主に学費支援)を強化していくための研修
- 第3回SD活動 (2022/07/28) : アドミッションセンター業務について
- 第4回SD活動 (2022/09/21) : キャリアサポートセンター業務について
- 第5回SD活動 (2023/01/31) : 研究活動支援に関する業務について
- 第6回SD活動 (2023/03/21) : 奨学金に関する業務について

b 実施方法

FD/SD委員会とともに、新型コロナウイルス感染症を考慮し対面とオンライン双方を利用した実施。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

(FD活動開催状況)

<全体FD>

- 第1回全体FD活動 (2020/09/24) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第2回全体FD活動 (2020/11/26) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第3回全体FD活動 (2020/12/24) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第4回全体FD活動 (2021/02/25) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第5回全体FD活動 (2021/06/03) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第6回全体FD活動 (2021/07/15) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第7回全体FD活動 (2021/09/22) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第8回全体FD活動 (2021/11/25) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第9回全体FD活動 (2022/01/19) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第10回全体FD活動 (2022/03/17) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第11回全体FD活動 (2022/05/26) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第12回全体FD活動 (2022/07/21) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第13回全体FD活動 (2022/09/29) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第14回全体FD活動 (2022/11/17) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第15回全体FD活動 (2022/01/19) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤
- 第16回全体FD活動 (2023/03/22) : (対象者) 全専任教員及び一部非常勤

(SD活動開催状況)

- 第1回SD活動 (2020/10/28) : 職員12名、教員4名(専任教員4名)
- 第2回SD活動 (2022/01/13) : 職員10名
- 第3回SD活動 (2022/07/28) : 職員13名、教員1名(専任教員1名)
- 第4回SD活動 (2022/09/21) : 職員14名、教員1名(専任教員1名)
- 第5回SD活動 (2023/01/31) : 職員9名、教員1名(専任教員1名)
- 第6回SD活動 (2023/03/21) : 職員11名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和4年度の一年間も様々なFD活動を行ったが、特記すべき事項はFD委員による授業見学と外部講師を迎えた研修である。特にFD委員による授業見学は学生アンケートの数値向上につながったと考える。以下、詳細を記載する。
例年、本学では学生アンケートを実施し、そこで得られた回答を各教員に配布することで授業改善を図ってきたが、令和4年度は学生アンケートは勿論、令和3年度から引き続きFD委員による授業見学を実施し、授業見学後、教員個人へのフィードバックを行った。この取り組みによって、授業を持つ教員それぞれに適した具体的なアクションが明確になり、結果として学生アンケートの数値の向上にもつながった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期授業終了時と後期授業終了時に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員にはアンケート結果を数値化してフィードバックを行った。学生へはコミュニケーションツールSlackを通してフリーアンサーへの回答も含め公開を行った。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために、教育課程連携協議会を設ける。教育課程連携協議会は、次の者を持って構成する。

- (1) 学長が指名する教員その他の職員
- (2) 本学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有するもの
- (3) 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者
- (4) 臨地実務実習（専門職大学設置基準第二十九条第一項第四号に規定する臨地実務実習をいう。）その他の授業科目の開設又は授業の実施において当該専門職大学と協力する事業者
- (5) 本学の教員その他の職員以外の者であって学長が必要と認めるもの

なお、構成員について昨年度から人事異動に伴う交代が1名発生したため、別添資料に令和5年5月1日時点の委員名簿添付する。加えて、認可以降の交代歴等が確認できるように委員名簿の新旧対照表を添付する。（⑥-1 教育課程連携協議会構成員名簿、⑥-2 新旧対照表（教育課程連携協議会構成員名簿））。

人事異動に伴う交代となったNo. 6の小澤氏は前任と同じポジションに就任しており、かつ似た経歴等を保持しているため後任として相応しい。

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

第1回教育課程連携協議会（2020/07/29）

●参加者：15名

【構成員】出席11名（代理出席1名、オンライン参加2名含む）

【陪席】出席4名（専任教員2名、職員2名）

※新型コロナウイルスの影響で、代理参加、オンラインでの参加も可とした。

※昨今の情勢上、やむを得ず欠席となった構成員2名を対象に、9月9日に協議会とは別に本学にて、当該委員会の審議内容を報告の上、承認いただいた。

※教育課程連携協議会規定 第5条に基づき本学の教職員4名が陪席した。

【以下、教育課程連携協議会規定 抜粋】

（非構成員の出席）

第5条 議長は、必要があるときには、教職員を陪席させ、又は構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

第2回教育課程連携協議会（2021/03/22）

●参加者：17名

【構成員】出席13名

【陪席】出席4名（構成員所属企業1名、職員1名、専任教員2名）

※新型コロナウイルスの影響で、代理参加、オンラインでの参加も可とした。

※昨今の情勢上、やむを得ず欠席となった構成員2名を対象に、3月22日に協議会とは別に本学にて、当該委員会の審議内容を報告の上、承認いただいた。

※教育課程連携協議会規定 第5条に基づき構成員所属企業1名・本学の教職員3名が陪席した。

【以下、教育課程連携協議会規定 抜粋】

（非構成員の出席）

第5条 議長は、必要があるときには、教職員を陪席させ、又は構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

第3回教育課程連携協議会（2022/03/28）

●参加者：18名

【構成員】出席13名

【陪席】出席5名（学長、専任教員2名、職員2名）

※新型コロナウイルスの影響で、代理参加、オンラインでの参加も可とした。

※教育課程連携協議会規定 第5条に基づき学長および本学の教職員4名が陪席した。

【以下、教育課程連携協議会規定 抜粋】

（非構成員の出席）

第5条 議長は、必要があるときには、教職員を陪席させ、又は構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

第4回教育課程連携協議会（2023/03/29）

●参加者：23名

【構成員】出席13名

【陪席】出席10名（学長、専任教員7名、職員2名）

※オンラインでの参加も可とした。

※教育課程連携協議会規定 第5条に基づき学長および本学の教職員9名が陪席した。

【以下、教育課程連携協議会規定 抜粋】

（非構成員の出席）

第5条 議長は、必要があるときには、教職員を陪席させ、又は構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

c 委員会の審議事項等

- (1) 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- (2) 産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

d その他

第3回及び第4回教育課程連携協議会は学長にも陪席いただき、改めて当該委員会にて本学のカリキュラムに対する貴重な意見、並びに、本学の学問としての特徴と、その特徴を生かした学生が輩出できるように支援していただくよう、改めて依頼した。

② 審議状況

a 審議した内容

第1回教育課程連携協議会 (2020/07/29)

●「地域共創デザイン実習」および「臨地実務実習Ⅰ～Ⅲ」を中心とする本学の実習科目の運用について審議した

第2回教育課程連携協議会 (2021/03/22)

●「一年間の教育内容の振り返り」を中心に一年間の報告と実習科目を中心とする今後の運用について審議した

第3回教育課程連携協議会 (2022/03/28)

●全教育課程の見直しについて審議した

第4回教育課程連携協議会 (2023/03/29)

●前回の教育課程連携協議会の意見・提言についての対応と各学科別の教育課程の見直しについて審議した

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

第1回教育課程連携協議会 (2020/07/29)

「地域共創デザイン実習」及び各「臨地実務実習」等、本学の実習科目は全て2年次以降の実施のため、教育課程の見直しの予定はない。よって、計画通りこれらの科目が実施できるように、引き続き本協議会の参加、授業への参画等について改めて確認を行った。

第2回教育課程連携協議会 (2021/03/22)

令和2年度は新型コロナウイルスの影響によるオンラインでの実施状況について中心に審議した。今後も学生の安全面の確保の実施が必要である一方で、対面を必要とする演習・実習科目も用意されていることから、引き続き流動的な情勢に対して臨機応変に登校日数を調整することで、ハイブリット（オンラインと対面を並行）で教育を実施することとなった。

第3回教育課程連携協議会 (2022/03/28)

協議された内容について、現在、副学長・学部長並びに学科長を含む教授4名にて基本案を検討である。今後は令和4年度の前期課程修了後に各学科にて教育課程に反映するか協議を行う予定である。

第4回教育課程連携協議会 (2023/03/29)

協議された内容について、現在、副学長・学部長、学科長および本学にある全5コースそれぞれの主要教員にて基本案を検討する予定である。なお、今回の会議は従前どおりの報告および議論に加え分科会を実施することで、より粒度ある意見をもらうことができた。

情報工学科では、教育課程の編成や体形ではなく学生の成果物について「(今後もさらに)発表する機会があると良い」との提案があった。デジタルエンタテインメント学科も、教育課程の編成や体形ではなく教育内容について「現場で実際に使われている資料を利用した授業にしてみても」という提案があった。

今後は令和5年度の前期課程修了後に各学科にて教育課程に反映するか協議を行う予定である。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

第1回教育課程連携協議会 (2020/07/29)

b.に記載した通り、実習科目が未開講のため教育課程の見直し予定がない。よって教育課程への反映もない。

第2回教育課程連携協議会 (2021/03/22)

b.に記載した通り、引き続きオンライン授業と対面授業を臨機応変に組み込むことによって、計画通り教育課程を進めることとなった。よって教育課程の変更とそれに伴う反映もない。

第3回教育課程連携協議会 (2022/03/28)

議論した結果、教育課程の内容やシラバスの変更を伴わず実施できるものは科目担当教員に依頼し実施した。

第4回教育課程連携協議会 (2023/03/29)

b.に記載した通り現在基本案を検討中、今年度中に各学科に落とし込んで具体的に反映するか協議を行う。よって現時点では教育課程への反映はない。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
本学は、学則第2条に基づき、教育研究水準の向上を図り、本学の目的・使命を果たすため、教育研究活動等について自ら点検及び評価を行うため、自己点検・評価委員会を設置し委員会も実施している。
自己点検・評価委員会は、学長、学部長、統轄責任者、理事、その他学長が必要と認める者で構成し、規定通り実施した。令和4年年度は6月22日に第3回目の委員会を開催し、「認証評価スケジュール、認証評価機関、体制」について議論し合意した。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期
自己点検・評価のための様式を整備したうえで、公表時期を検討する。
・令和5年5月1日 公表

b 公表方法
大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画
(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)
令和6年度に分野別認証評価、令和8年度に機関別認証評価を受審する計画を立てている。
分野別認証評価については、本設置計画履行状況報告書作成時点で本学の分野に関する認証機関がないものの、申請中の申請者が存在しているため、そのうちの1団体と認証評価実施に向けた打合せを進めている。令和6年度時点で認証機関が存在しない場合には、学校教育法第109条3号但し書きにて定める代替措置を講じる。
機関別認証評価については、同一法人が設置する東京通信大学が令和6年度に評価を受けるため、同じ認証機関で受審する予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。